

『明月記』断簡



口絵の解説

明月記

鎌倉時代に活躍した偉大な歌人藤原定家が記した日記『明月記』は、その大部分が京都の冷泉家時雨亭文庫に残り、国宝となっている。しかし一部流出したものもあり、それらは3行、5行、あるいは10行と細かく切断されて、断簡や掛け軸となって残されている。

平成23年に新たに加わった当館所蔵の『明月記』も、表装された断簡である。建仁元（1201）年6月1日の条の3行が記され、内容から「千五百番歌合」や悲劇の皇子「三宮親王」についてうかがい知ることができる貴重な新出資料である。

書見台

世界図書館巡礼—東西文化交渉の書籍を求めて

イタリア編(1)—カサナテンセ図書館 内田慶市 ... 3

虫ぼし抄

聖語蔵経巻の魅力 乾善彦 ... 7

「法体系」を「紡ぐ」もの—『Collection des Juris-classeurs』に寄せて— 高作正博 ... 10

平成24年度基本図書購入リスト 13

〈図書館自己点検・評価について〉..... 関西大学図書館自己点検・評価委員会 ... 17

図書館談話室

平成24年度大学図書館近畿イニシアティブ基礎研修「初任者研修」を受講して 嶋田有理香 ... 39

第14回図書館総合展に参加して 大上良樹 ... 43

図書館活動報告

平成24年度図書館活動報告 47

図書館展示会報告 50

図書館出版物案内 51

規程・内規・要領の改正

平成24年度に制定及び改正のあった図書館諸規程 52

『図書館フォーラム』投稿要項

編集後記

世界図書館巡礼

—東西文化交渉の書籍を求めて イタリア編(1)—カサナテンセ図書館

内田慶市

1. 邂逅

漢訳聖書翻訳史上に燦然と輝くロバート・モリソン (Robert Morrison、1782-1834) の漢訳聖書は、新約の『新遺詔書』(1813) と、ミルン (William Milne、1785-1822) の協力を得た旧約の『旧遺詔書』(1823) を合わせて『神天聖書』(1823) 21 本としてマラッカから刊行されたが、このうち新約については、パリ外国伝道会の宣教師ジャン・バセ (Jean Basset、中国名：白日昇、1662-1707) の『四史攸編』(『四史攸編耶穌基利士督福音之会編』) を元にしたことはつとに明らかにされてきた。この『四史攸編』は大英図書館に所蔵されているが、モリソン自身が筆写 (転写) したもう一本の『四史攸編』も香港大学図書館に所蔵されている。

ところが、4 年前のこと、『四史攸編』とは別のバセ訳新約稿本がローマのとある教会図書館に所蔵されていることが明らかになった。その図書館とはカサナテンセ図書館 (Biblioteca Casanatense = Casanatense Library) である。

2009 年 4 月の初め、筆者は北京外国語大学中国海外漢学センターの張西平氏から送られた写真 (CD) をひろげて見て久しぶりに胸の昂りを覚えた。それは、かつて、ロバート・トーム (Robert Thom) の『意拾喩言』(イソップ物語の漢訳本) の稿本『意拾秘伝』やおそらく中国人の手になる最初の中国語文法書である畢華珍の『衍緒草堂筆記』、あるいはトーマス・ウェード (Thomas Francis Wade) の『語言自邇集』の試用本の一つである應龍田の『登瀛篇』といった、筆者がずっと探し求めていたものと巡り会った時のあの感覚であり、この稿本は漢訳聖書研究史上、超一級の発見と言っても過言でないはずのものであるからであった。

その手稿本の扉にはまずラテン語で以下のように本手稿本の内容について記されている。

Novum
Testamentum

Ms

Sinice

Redditum

A domino Johanne Basset

(新約聖書、稿本、中国語、訳者、Johanne Basset = Jean Basset)

Vid. Inventarium

§ A. 33

pag. 93

(目録の § A.33、93 頁参照)

Desiderantur ferme totu

Epistola ab Hebreos

Epistolae Canonicae Petri Jacobi

Et Johannis

Apocalypsis

(われわれは更に以下の全てを求める。ヘブル書、ヤコブ書、ペテロ書、ヨハネ書、黙示録)

この後に、「B.C.」の印があり、さらに、その下にイタリア語で次のように本手稿本が本図書館に所蔵された由来が続いている。

Era in sette libbreor staccato l'uno dall'

-altro, fralle scritture donate gia' dal

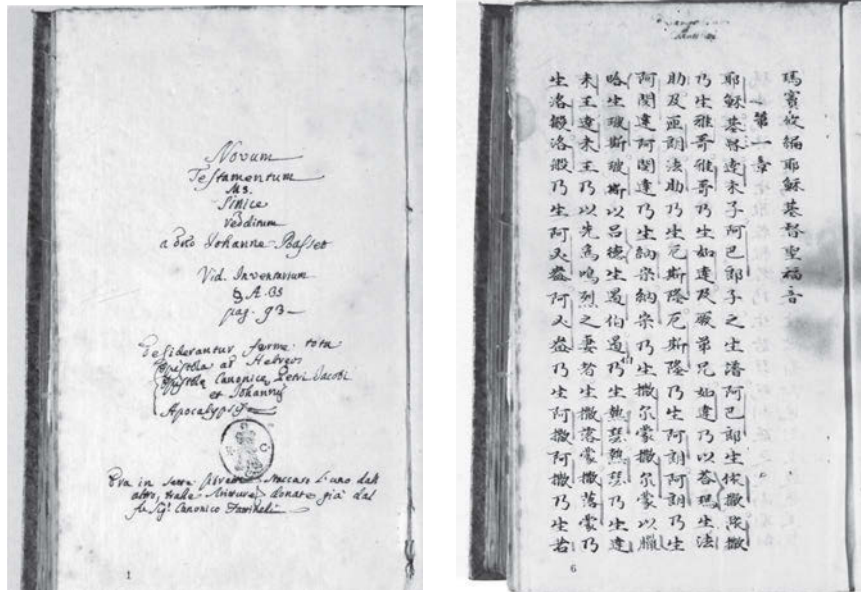
-fu Sig. Canonico Fattinelli.

(元 7 巻本で、Fattinelli 神父によって我々に寄贈されたもの)

この「B.C.」の印とは、「B = Biblioteca」、「C = Casanatense」を意味しており、すなわちカサナテンセ図書館なのである。

また、最終頁には

Biblioteca Casanatense Roma Regia Mss. 2024



『四史攸編』手稿本

とあり、マニユスクリプトの請求番号となる。

2. カサナテンセ図書館

上記の手稿本がローマのカサナテンセ図書館にあることが分かってから、5ヶ月後の2009年9月、ローマ大学の友人のフェデリコ・マシーニ教授（現在ローマ大学副学長）の案内でついにそこを訪れることができ、現物を見ることができた。

その場所は、ナヴォーナ広場やパンテオンから歩

いて10分ぐらい、スペイン広場からならコルソ通りをコレジオ・ロマーノ（ローマ学院）の方に15分ぐらいの所にある。聖イグナチオ通りの狭い路地を少し北に行くと、右手にサンティニャツィオ教会、左手に図書館がある。なお、サンティニャツィオ教会と図書館側との間にはアーチ型通路がある。

さて、このカサナテンセ図書館は元来ドミニコ会のサンタ・マリア・ソプラ・ミネルバ教会（Santa Maria Sopra Minerva）附設の図書館として開設されたが、その後、ジェロラモ・カサナテ枢機卿



アーチ型通路



カサナテンセ図書館入口



シ・ロラモ・カサナテ枢機卿



メモリアル閲覧室



メモリアル閲覧室



カサナテンセ図書館内部

(Cardinal Gerolamo Casanate, 1620-1700) の意志によって1701年11月3日に公開されたものであり、そこから「カサナテンセ」図書館と命名されている。

本図書館の蔵書は上述のカサナテ枢機卿のコレクション(25,000冊)が元になっているが、その後、多くの寄贈を受けて、現在ではマニュスクリプト6,000冊を含み、約400,000冊の蔵書数を誇っておりバチカン図書館、ローマ国立中央図書館に次ぐものである。なお、日本ではキリシタン版の『さるばとる・むんち』(1598年長崎刊)や『どちりな・きりしたん』(1600年長崎刊)を所蔵することで、キリシタン関係者や国語学者の間では夙に知られている。

蔵書目録については、徐々にオンライン化が進められているが、現在も作業は続行中であり、原則は昔ながらのカード検索となる。ほとんどが貴重書であるにも関わらず、当日行ってしばらく待てば、大

抵は閲覧室で閲覧が可能であるのは、他の欧米の図書館と同様である。

館内にはメモリアル閲覧室もあるが、入ればその荘厳さにまさに息をのむはずである。

開館時間は、次の通りである。

月一金…8:30-19:00

土……………8:30-13:30

ただし、8月と12月は8:30-13:30、また、8月の第2週と第3週は休館となっている。

3. ローマ市内のその他の図書館

詳しくはまた次回以降に述べることとするが、ローマ市内の図書館には他に以下のようなものがある。

- (1) 国立中央図書館 (National Library of Rome/ Biblioteca nazionale central Roma)
- (2) 国立公文書館 (State Archive Rome/ Archivio di Stato di Roma)
- (3) バチカン図書館 (Apostolic Vatican Library/ Biblioteca Apostolica Vaticana)

- (4) バチカン公文書館(Vatican Secret Archive/ Archivio Segreto Vaticano) Angelica)
- (5) イエズス会文書館 (Archivium Romanum Societatis Iesu) (8) The Library of the Pontifical Urbaniana University
- (6) Pontifical Gregorian University Library (9) ローマ大学図書館(Allesandrina Library/ Biblioteca Alessandrina)
- (7) アンジェリカ図書館 (Angelica Library/ Biblioteca (うちだ けいいち 外国語学部教授)

聖語蔵経卷の魅力

乾 善 彦

はじめに

正倉院といえば、校倉造の正倉とそこに納められた数々の宝物で有名のだが、その正倉の前にもうひとつ棟、同じ校倉造の正方形の蔵がある。もと東大寺尊勝院の経蔵で、聖語蔵とよばれ、明治27年、所蔵の経卷が皇室に献納されたのを機に正倉院の構内に移築されたものである。そこに収められているのは、隋・唐経や天平写経を中心とした貴重な經典ばかりであり、聖語蔵経卷と呼ばれる。毎年、奈良国立博物館で開催される正倉院展には、最後の方にならず、ここの経卷のいくつかが出展される。その聖語蔵経卷が、カラーデジタル化されて、広く研究に資するようになった。



図1 聖語蔵

カラーデジタル版聖語蔵経卷は現在、第一期隋・唐経から第四期甲種写経までが刊行されており、この度、本学図書館に一括収蔵された。これを機に、その研究資料としての一端を紹介しておきたい。

1. 資料の概要

聖語蔵経卷は、第一期 隋・唐経篇 243 卷、第二期 天平十二年御願経 750 卷、第三期 神護景雲二

年御願経 742 卷、第四期 甲種写経 316 卷（現在第一期配本 158 卷）で、現在なお、刊行途中である。第一期の隋・唐経は、隋・唐時代に書写されて遣唐使たちなどによって将来された写経類である。これらの中には、平安時代初期（9世紀）の白点が付されたものが散在するが、その全容はかならずしも明らかではなかった。今回のデジタル化で、その全容を明らかにすることができるようになった。これからの調査が待たれる。第二期の天平十二年御願経は、聖武天皇の皇后光明子が、亡父母への追善のために書写させた一切経であり、世に五月一日経として名高いものである。これらには、書写校正に携わった人々による書きつけがあり、一切経書写に関わる記録として、その成立を考える上で貴重な資料となっている。これもその全体像を画像によって知ることができるようになり、今後、研究史を見直すことができるようになった。第三期の神護景雲二年御願経は称徳天皇の発願によるもので、景雲経と呼ばれならわされてきたが、このデジタル化のために精査された結果、景雲経といえるものは、その奥書を有する四巻のみであり、そのほかは多くが宝亀年間に行われた一切経の書写事業の折のものであることが明らかになった。このように本デジタル版によって、研究史が塗り替えられることが、今後、さまざまな形であらわれてくるに違いない。第四期甲種写経は雑多なものを含むが、中には界線をひかない写経や、新羅写経などが含まれ、その多様性は經典の伝来や仏教の受容にまつわるさまざまな情報を提供してくれる。

2. 訓点資料として

第一期は、隋・唐経といわれる舶載の経卷である。その伝来の確かさに加えて、この中に白点が加点されているものが、従来注目されていた。たとえば、唐経である大乘大集地藏十輪経正暦二年点などである。お経や漢籍を日本語で理解するために、記号や

仮名が書き込まれたものを訓点資料といい、日本語史研究に重要な資料となっている。平安時代中期以降、赤の朱点や黒の墨点がポピュラーになるが、平安時代初期には白墨のようなもので付されることがあり、白点という。平安時代初期という古い点で貴重なのだが、白点は朱や墨と違い剥離しやすいので、残っているものも少なく、開くたびにそこなわれていくので、扱いは慎重を要するし、できるだけ開くのを制限しておく必要がある。そこで、これを常時扱うことはできないでいた。白点資料として、地蔵十輪経や方広経など数点は、写真版がかつて作られたが、それも今は入手しがたく、平安時代初期の訓点研究は、新しい研究者を開拓できないような状態がつづいていた。これで聖語蔵の全体像が明らかになったので、今後、あらたな発見があるにちがいない。たしかに、現物をみるにしくはないが、デジタル版は解析度も高く、細密な研究が期待できるのである。

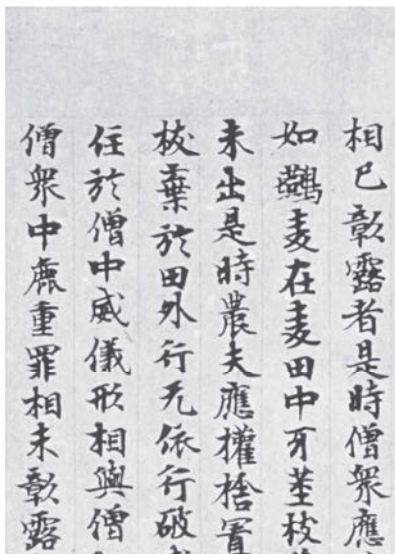


図2 大乘大集地蔵十輪経正暦二年点

平安時代初期の訓点資料は、この時期には和文の資料がない点で、日本語の歴史を研究するうえで極めて重要である。それは上代語と中古語とのあいだをつなぐ資料だからである。近年、上代資料として、七・八世紀木簡が大量に発見されるようになった。そこで上代語の知見が従来と大きく異なってきた。それにともない、中古語への連続と非連続とが注目されるようになった。たとえば、木簡には他の上代資料には例をみないが、平安時代和文には例がみられるものがあり、木簡資料の日常性が平安時代和文

に連続していることがいわれる。ところが、一方で上代散文、古事記や正倉院仮名文書などには漢文訓読的な語法が多く含まれることが指摘されている。とすると、平安時代初期の訓点資料の用語と中後期以降の平安和文との関係が見直される必要が出てきている。そんな目でもう一度、平安時代初期訓点資料を見直す必要がある。このデジタル化は、それが容易にできるようになった点で、とてもありがたいものなのである。

3. 字体資料として

もちろん、隋・唐経本文の漢字字体が、書道史や字体史の研究に資することはいうまでもない。現在、漢字字体史のデータベースとして、北海道大学教授であられた石塚晴通氏を中心として、漢字字体規範データベース (HNG、Hanzi Normative Glyphs) が公開されているが、その中に、聖語蔵経巻から、賢劫経 (隋経)、四分律、阿毘達磨大毘婆沙論 (唐経)、大般若経 (和銅経)、瑜伽師地論、四分律 (五月一日経)、如来示教勝軍王経、大乘悲芬陀利経 (神護景雲経) などが利用されている。膨大な資料の中から厳選されたものであるが、他の経巻の字体も当然参照されるべきであり、それは個人個人の研究に委ねられることになる。われわれはこのデータベースをもとにしながらも、独自の調査が可能になったのである。これについても、一例をあげると、写経用の正字体はけっして当時の正字体ではなくて、どちらかといえば通行字体になる。たとえば、辞書的な正字体「來」に対して、写経類には、現在われわれ

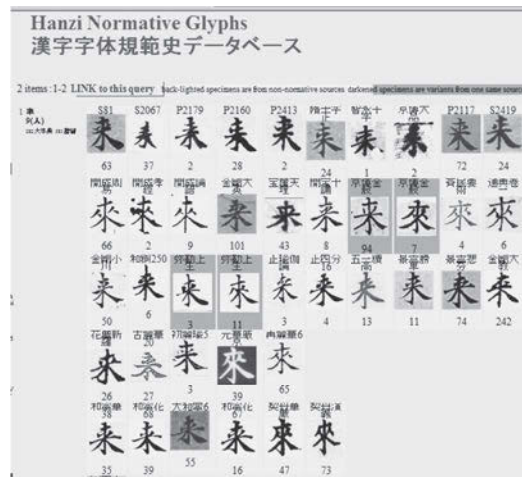


図3 漢字字体規範史データベース
<http://www.joao-roiz.jp/HNG12/>

が新字体として用いる「来」もまま見られたりする。写経という世界の標準字体も、ものによって一様ではない。また、書風についても、8世紀前半に、それまでの六朝書風から初唐の書風へと変化する様子が見て取れる。しかしこれには個人差もあるのであり、そのあたりの厳密な区分けも、全体がデジタル化されることによって、その全体的な研究が可能になったのである。

その点で、前にもふれたが、神護景雲二年とされてきたものの大半が、景雲経でないことが明らかになったことの意義は大きい。今後、このような研究が陸続とあらわれ、従来必ずしも明らかではなかった無奥書の経巻類の基礎的研究が積み重ねられることで、資料としての価値が見直され、字体や書風の史的 research が大きく進むと思われる。

4. 裏文書

甲種経巻類には、もうひとつ、経典以外の資料としての魅力もある。梵網経疏抄には、裏書きとして

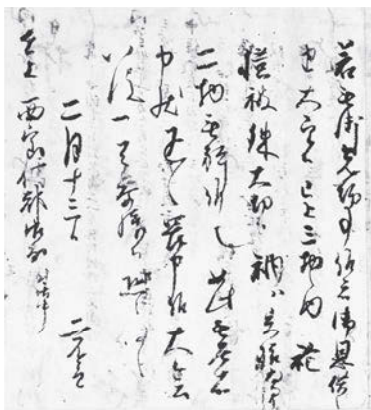


図4-1 梵網経疏抄裏文書（漢字文書）



図4-2 梵網経疏抄裏文書（仮名文書）

鎌倉時代、承久・貞応ごろの文書が残されている。梵網経疏抄は経典の注釈であり、経典のように、料紙が用意され、写経され、校正されといった工程を踏むものではなく、書式も自由であれば書写態度も、写経とは大きく異なる。そのような自由な筆致も魅力なのだが、手紙や記録といった文書を二次利用してその裏に書かれたものであり、元来の表面（裏文書という）に書かれているものも、同時代の資料として価値が高い。鎌倉時代の文書を集成した『鎌倉遺文』に未収録の文書が多数あり、これらを利用できるようになったことは、たいへん喜ばしい。正倉院展などでは決して、裏全体を見ることはないが、本デジタル化では文字のかけらでもあればすべて撮影する方針であり、裏文書も表面同様、全体像を見ることができるのは、今後の研究に資すること大であらう。とくに、そこに多く含まれる仮名文書は、ほとんどが『鎌倉遺文』に未収録の文書、つまり今まで報告されていなかった文書類であり、鎌倉時代語の研究にとっても、利用価値の高いものとなっている。甲種写経類は、新たな発見の宝庫であるといえよう。甲種写経類の続刊、乙種写経類の刊行が待たれる。

おわりに

以上、話が抽象的に過ぎたきらいがあるが、今回、デジタル化された聖語藏経巻は、質・量ともに、国語学・国語史資料としての価値のきわめて高いものである。もちろん、仏教史、書道史、古代史といった、本来、主たる資料として研究がなされてきた分野においても、当然、喜ばれるべき事業であったが、国語史をはじめ、美術史や中世史といった周辺の研究においても利用価値の高いものなのである。本学の多くの研究者や学生に利用されて、その真価をいかんなく発揮できることを、願ってやまない。小生もこれを活用して、自身の研究が大きく進展するものと期待している。

(いぬい よしひこ 文学部教授)

「法体系」を「紡ぐ」もの

—『Collection des Juris-classeurs』に寄せて—

高 作 正 博

序—「体系性」の根源

「法」とは何かという問いは、古くからの難問である。様々な要素を1つの定義に収めようとする学説の間で、見解の一致を見ないからだ。H・L・A・ハートは、その代表的書物の冒頭で、「人間の社会に関する諸問題のなかで、『法とは何か』の問題ほど、非常にさまざまな奇妙な、そして逆説的でさえあるやり方でまじめな思想家達によって執拗にたずねられ答えられてきたものはほとんどない」と述べる(H.L.A. HART, *The Concept of Law*, Second Edition, Clarendon Press, Oxford, 1994. p.1. 本文訳は、矢崎光圀監訳『法の概念』(みすず書房、1976) 1頁による)。

ただ、定義が難しいということは、それが存在しないことを意味しない。「法」が定義困難であるとしても、それは間違いなく「存在する」。フランシス・アモンとミシェル・トロペールによる憲法のテキストでは、存在する「法」の特徴として「階統性」「ヒエラルキー」が挙げられている(Francis HAMON et Michel TROPER, *Droit constitutionnel*, 28e éd., L.G.D.J., 2003, p.14.)。規範がより上位の規範によって妥当性を与えられているものの総体が「法」ということになる。この意味で、「法」は、「体系」となる。正に、リーガル・システムであることが「法」の特徴とされる。こうして、法がもつ体系的性質への研究も盛んに行われている(Joseph RAZ, *The Concept of A Legal System: An Introduction to The Theory of A Legal System*, Second Edition, Clarendon Press, Oxford, 1980. 松尾弘訳『法体系の概念—法体系論序説 [第2版]』(慶應義塾大学出版会、2011))。

本小論は、「法体系」を「紡ぐ」ものが何かを、フランス法を素材として検討しようとするものである。

1 フランス法における「法体系」の困難性

(1) 「法体系」の一元性と裁判所

法体系をめぐるのは、さまざまな問題が議論されている。例えば、規範のピラミッドの頂点には何が来るのかという問いである。ある1つのものから始まり、下位の層へと下降するごとに裾野が拡大するというヒエラルキーのモデルに従えば、頂点は1つである。この点、「憲法制定権力」による政治的決定を憲法の正統性の根拠、従って、法体系の頂点とする見解(カール・シュミット、尾吹善人訳『憲法理論』(創文社、1972))、法律や憲法の妥当性の究極の根拠にして仮定のものである「根本規範」に求める見解(ハンス・ケルゼン、清宮四郎訳『一般国家学』(岩波書店、1971)、尾吹善人訳『法と国家の一般理論』(木鐸社、1991))がよく知られている。どの立場(1つの「決定」か1つの「規範」か)に依拠するにせよ、憲法、法律、条例、命令・処分、判決と、法の具体化が進むことで、規範のピラミッドは構築されていく。下位の規範の制定者は、上位の規範の枠内で規範を決定する。

但し、「法体系」はひとりで「体系」となるわけではない。上位の規範と下位の規範との無矛盾性が確保されなければ、妥当性の体系が完成しないからである。この無矛盾性の確保は、各規範の制定者が判断していくべきものである。「法」が人為的なものである以上、体系化も人為的に構築されなければならない。規範制定者の間で、上位の規範に関する理解が異なり、それ故、規範間の無矛盾性に疑念が生じるとき、規範の最終的解釈権(有権解釈)は、裁判所に存する。憲法の最終的解釈権者は、英米法においては司法裁判所、大陸法においては憲法裁判所となる。

(2) 「法体系」の多元性と憲法院

ところが、フランス法の場合、ここに難点が存する。憲法問題を扱う憲法院は存在するのではあるが、

その権限が限られており、「法体系」の一元性を確保することができないのである。フランスは多元的裁判法制を特徴とし、司法系列、行政系列、憲法裁判のそれぞれに最上級裁判所が存在する。司法系列の最上級裁判所である破毀院、行政系列の最上級裁判所である国務院、憲法院という3つの裁判機関の間には優先関係が存在せず、判断が分かれた場合の対処方法が規定されていない。それ故、組織の多元性が規範の多元性を放置することとなる。

また、憲法院の審査が「事前審査」であるという点も重要である。憲法院の「合憲性の統制権」（違憲審査権）の対象は、組織法律、議院規則、普通法律、国際協約であるが、このうち、普通法律はその審査前に、国際協約はその批准または承認の前に、憲法院に付託される（第5共和国憲法第61条第2項、第54条）。これらの統制は任意である。普通法律及び国際協約は、大統領、首相、国民議会議長、元老院議長、または60名の国民議会議員もしくは60名の元老院議員によって憲法院に付託される（第61条第2項、第54条）。合憲性の審査は原則として1ヶ月以内、緊急の場合には政府の請求により8日以内に行われる（第61条第3項）。国際協約が違憲と判断されると、「憲法改正の後でなければ、当該国際協約の批准または承認をすることができない」（第54条）。法律や国際協約が成立した後、具体的な事件を契機に憲法問題が生じて、憲法院はもはや法律等の審査権を有していなかったのである（後に述べるように、2008年の憲法改正でこの点に変化が生じている）。

2 フランス法における「法体系」の可能性

(1) 合憲性の統制の展開

それでも、「法体系」の一元化への歩みは、憲法院の内部で試みられ、また、憲法改正によっても行われてきた。まず、憲法院による判例政策を通じた権限拡大である。第1に、憲法規範の拡大である。憲法院は、人権カタログを持たない現行憲法の前文を解釈し、個別の人権を導き出した。参照されたのは、1946年憲法前文で規定された諸権利及び「共和国の諸法律によって承認された基本的諸原理」、1789年宣言の各規定、「憲法的価値を有する目的」である（「憲法ブロック」）。

第2に、統制手法の拡大である。憲法院が、付託された法律の憲法適合性について判断を下す場合、

単純に合憲ないし違憲という場合以外の意味合いが込められることがある。①憲法院が法律を合憲と判断する際に、判決中に解釈の留保を付す「留保付き合憲判決」である。②違憲判断ではあるが、立法府に対し同じ目的を達成するにはどうすべきかを指し示す「指示付き違憲判決」である。①はさらに、全ての法的射程を否定することにより法規定を無効化する「無効化留保」、適用領域を限定あるいは補完するために法規定の外見上の内容を修正する「建設的留保」、法規定が適用されるべき態様に関して比較的詳細な指示を含む「指令留保」に区別される。

第3に、審査対象の拡大である。法律の合憲性の統制は、審査前に限り行われる事前審査制度であるが（第61条第2項）、例外的に、審査・公布後の現行法に対する違憲審査が行われるようになっている。憲法院は、「すでに審査された法律の改正、補完またはその適用領域に影響を及ぼすことを目的とする法律の審査に際し、すでに審査された法律の文言につき違憲の申立をすることはできる」（Déc.85-187 DC）と述べ、法律の事後審査の可能性を認めた（違憲判断を下した例として、Déc.99-410 DC）。しかし、法律の事後審査には限界も存する。即ち、限られた法律についてしか審査は及ばないこと、また、憲法院が阻止することができるのは審査前に審査に付された法律のみであり、既に審査された法律についてその法的効力を否定することは困難だということである。

(2) 2008年の憲法改正と「違憲の抗弁」

2008年の憲法改正によって、従来の憲法院の制度に新たな側面が付け加えられた。「違憲の抗弁」の仕組みである。これは、具体的な争訟の中での抗弁という方法で、市民にも提訴権を拡大し、審査後の法律に対する事後的審査を制度化しようとするものをいう。もともとは、1989年にフランソワ・ミッテラン大統領が提案した憲法院改革案であったが、その当時は国民議会と元老院で憲法改正に必要な賛成を獲得することができず、成立しなかった（曾我部真裕「フランスの2008年憲法改正の経緯」法学教室338号（2008）4頁以下、曾我部真裕「2008年7月の憲法改正」日仏法学25号（2009）181頁以下、南野森「フランス—2008年7月の憲法改正について」法律時報81巻4号（2009）92頁以下〔辻村みよ子・長谷部恭男編『憲法理論の再創造』（日本評論社、2011）241頁以下所収〕等参照）。

この改正で新設された条文は、次のように規定する。

「第61条の1(新設)

①裁判所に係属中の訴訟において、ある法律規定が憲法の保障する権利及び自由を侵害すると主張されたとき、別に定める期限内に内閣府もしくは破産管財人が決定する移送に基づいて、憲法院がこの問題につき付託を受けることができる。

②組織法律が、本条の適用条件を定める。」

「第62条第2項(新設)

第61条の1に基づき違憲と判断された規定は、憲法院判決の公示以降又は憲法院判決によって定められた日以降、撤廃される。憲法院は、当該規定がもたらした効果を覆しうる条件及び制限を定める。」

通常裁判所による合憲性の統制の可能性についてはどうするのか、上級裁判所のみならず下級審や他の裁判所による移送の可能性を今後どうするのか等、検討すべき課題は多いものの、「事後審査」として「違憲の抗弁」が導入され、憲法院による憲法解釈が「法体系」の統一ないし一元化へと結びつく道は拡大されたといえるであろう。

(3) 学説による知識の「体系化」

以上の2つ、即ち、憲法院の判例政策及び憲法改正は、有権解釈者である憲法院による「法体系」の一元化確保の道筋であった。もう一つ、「法体系」を可能にする要素が残されている。学説である。学説自体は有権解釈ではないが、学説による知識の整理ないしその総体は、従来の判例の知識のみならず知識の体系化や矛盾のない説明を提示するものであり、当然に実務にも影響を与えるものとなる。学説による知識の「体系化」が、第3の「法体系」の可能性である。そして、この度、図書館に所蔵された『Collection des Juris-classeurs』は、各法分野の条文ごとの非常に詳細な解説を収めるものであり、法律学では必読の文献である。

ディドロとダランベールが編者となって出版された『百科全書』の「百科全書序論」では、2つの目的を挙げていた。「それは、『百科全書』として、人間知識の順序と連関とをできるかぎり明示せねばならぬ。また、それは『学問・技術・工芸の合理的〔体系的〕辞典』として、各学問および各技術—自由芸術であれ機械技術であれ—について、その土台たる一般的諸原理、およびその本体と実質をなす最も本質的な細目を含んでいなければならない」(ダ



ランベール、橋本峰雄訳「百科全書序論」桑原武夫訳編『百科全書』(岩波文庫、1971)18頁)。「百科全書」と「合理的辞典」という目的に沿って行われたプロジェクトであった。

知識の順序と連関を明示する「百科全書」と、一般的諸原理及び本質的細目を含む「合理的辞典」とを内容とする、という点では、『Collection des Juris-classeurs』も同様である。各法分野の逐条解説という形をとり、法律学における「百科全書」と「合理的辞典」を目指すのが、本プロジェクトの趣旨であろう。ここで示された知識の総体が、フランスの実務においてどのように具現化されていくのかを、検証することも可能となる。しかも、フランスから遠く離れた極東の地で、それが可能となるという点が、本コレクションの日本における最大の利用法ではないだろうか。

「法体系」を「紡ぐ」学説の役割の重要性を、『Collection des Juris-classeurs』所蔵に寄せて改めて確認をしておきたい。

(たかさく まさひろ 法学部教授)

平成24年度基本図書購入リスト

1 宮内庁正倉院事務所所蔵「聖語蔵経巻」2051巻

CD-R 88枚、DVD-R 13枚
CD-R / DVD-R版

[宮内庁正倉院事務所が宝物として長年に渡り調査・修理・保存してきた「聖語蔵経巻」(全4,960巻)のうち、カラーCD / DVD版の出版が進められた2051巻を収録したコレクションである。1200年の時を経てその全容が明らかにされる当資料は仏教学、歴史学、文献学、文学、国語学、書道史など、様々な研究分野に大きな転機をもたらすものとして内外の期待を集めているものである。]

2 The U.S. National Economy 1933-1969, 1981-2001

(米国財務省図書館所蔵未公開資料 アメリカ合衆国の経済 1933-1969年, 1981-2001年) 139 reels
マイクロフィルム版

[当資料には、第一次大戦からの歴代財務長官の記者会見録、新聞発表、報道用梗概書、演説そのほかの文書が含まれており、躍動する米国経済の記録となっている。当資料は、景気後退、恐慌、経済回復、インフレーション、失業、貿易赤字、政府歳出の増減、経済・産業の状況、連邦税制の動向、経済の規制と緩和、増大する国債問題等、ルーズヴェルトによるニューディール期を経てレーガノミックス、クリントノミックスに至る米国経済に関する豊富な第一次資料となっている。]

3 Collection des Juris-Classeurs (Encyclopédies) 91 vols

[Juris-Classeur社が刊行するJuris-Classeurシリーズはもっとも本格的な法律百科事典として実務家向けに、明快で客観的に記述することを旨としており、国際的にフランス法研究の基本資料とされるものである。世界的に活躍する研究者、法律専門家により各項目が記述されている。各項目はアルファベット順に分類され、利用の便も高く評価されている。世界各国の法律研究機関で利用される、フランス法研究における最も基本

的な法律百科事典群であるといえる。]

4 東アジア産業史DVD資料集成

(1) DVD-ROM版『日本紡績協会・在華日本紡績同業会資料』

明治14年～昭和35年

(2) DVD版『東アジア日本人商工会議所関係資料』

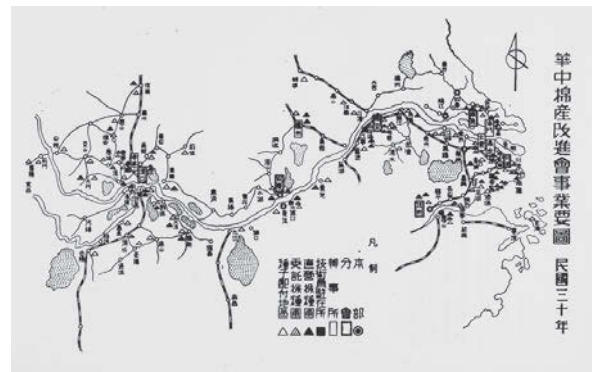
明治36年～昭和20年

(DVD版 全国商工会議所関係資料 第二期)

26枚

DVD-ROM版

[当資料は、欧米先進国からの圧力に抗して産業革命を達成しつつ、近隣アジア諸国への政治・経済支配を拡大し帝国主義化した日本とその前後時代における、東アジアでの産業活動の実態に鋭く迫る重要資料である。①は戦前戦後にかけて日本経済のさまざまな側面で牽引役となった綿紡績業について大阪大学附属図書館所蔵の日本紡績協会資料をデジタル化して収録し、②は当時の東アジアにおける日本人の産業活動の実態に肉薄するために不可欠な資料である東京商工会議所が所蔵する日本国外(東アジア)64都市の日本人商工会議所資料をデジタル化収録している。東アジア・日本近代経済史、植民地史、経営史、産業史に必須の資料であるといえる。]



5 物語文学資料集成

398 reels

マイクロフィルム版

[当資料は静嘉堂文庫に収蔵する古典籍のうち、物語文学関連の資料938点、4,130冊を6編に分類して収録したマイクロフィルムである。『竹取物語』『伊勢物語』『源氏物語』など王朝文化を彩った名作の古写本から、物語草子、日記、紀行、歴史物語、軍記物語、さらに近世の文集・消息文に及び、重要文化財の伝冷泉為相筆『平仲物語』、正徹自筆『徒然草』、伝阿仏尼筆『西行物語』なども収録し文学史的に重要な資料が網羅されている。]



6 Geshchitschreiber der deutschen Vorzeit.

Titles. 1, 3-10, 12-19, 21-97, 99-104. With gen. index 1/96.

Mostly 2nd and 3rd Gesamtausgabe. Reprint. 94 vols

[1819年に設立されたドイツ古史料集成協会は古代末期から15世紀までのゲルマン諸部族の地域のラテン語史料の校訂を組織的に展開してきた。この史料の大規模な刊本コレクションがモヌメンタ・ゲルマニアエ・ヒストリカ Monumenta Germaniae Historica (MGH) である。当コレクションは、膨大なMGHの中から、主に年代記、皇帝・王の伝記、聖人伝のラテン語史料をドイツ語訳にした、19世紀中葉から20世紀中葉までの叢書の復刻版である。西洋中世学の専門家によるドイツ語訳の当コレクションは、中世史(とくに中世ドイツ)、中世の文学、思想、宗教など、研究にMGHを利用する研究者の重要な参考資料として活用されることが期待される。]

7 山一証券株式会社

第一期 第五集：『山一証券資料 スタッフ部門』昭和21年-平成5年

第一期 第八集：『山一証券資料 国の機関』昭和26年-平成5年

第一期 第十集：『山一証券資料 山一関連企業等』昭和41年-昭和60年

第一期 第十二集：『山一証券資料 山一証券史、写真等』創業から破綻まで

158 reels + 4枚

マイクロフィルム + DVD-ROM 版

[1997年に経営破綻した山一証券株式会社が保有していた経営内部資料のうち重要部分は東京大学経済学部図書館に寄贈され、現在整理が進められている。当資料は同図書館が所蔵する重要コレクションのほぼすべてをマイクロフィルム化(並びにDVD-ROM化)したものである。本学図書館では平成19年度より順次収集を進め、今回の購入により第一期第一集から第一期第八集までと第一期第十集、第十二集を所蔵するに至った。公開される資料があまりにも膨大なため、その利用は極めて困難なものであったが、今回の出版に際しては、マイクロフィルムだけでなく、撮影されたフィルムがDVD-ROMにそのまま収録されている。同DVDには検索機能も付され、キーワード入力で知りたい情報をすばやく検索、該当資料をパソコン上でデジタル画像にて閲覧できるようになっている。]

8 Papers of Supreme Court Justices, Earl Warren

(米国議会図書館所蔵 E. ウォレン文書一連邦最高裁判所判事文書)

第1部：米国連邦最高裁判所長官としての意見

Part 1: Opinions as Chief Justice.

Series A: 1952-1961.

Series B: 1962-1969.

第2部：会議メモ

Part 2: Conference Memoranda.

Series A: 1953-1955.

Series B: 1956-1959.

第3部：往復書簡 1953~1974年

Part 3: Correspondence, 1953-1974.

128 reels

マイクロフィルム版

[当コレクションは、米国議会図書館の Manuscript Division で保管されている E. ウォレンの文書をマイクロ化したものである。1960年代に、合衆国連邦最高裁判所が、平等権や言論の自由、刑事手続上の権利に関して下した重要な憲法判例の形成において、E. ウォレンの果たした役割を実的に分析する上で第一級の資料であるといえる。]

9 British Documents on Foreign Affairs : Reports and Papers from the Foreign Office Confidential Print. Part 5: from 1951-1956.

(英国外務省機密外交資料 第五部—冷戦と民族解放運動—全 76 巻)

76 vols

[当資料は 19 世紀に世界の覇権国家となった英国の世界各地域の在外公館と本国政府間の日々の更新記録を含む膨大な資料である。現代イギリス外交史・国際関係史研究に携わる者にとって貴重な第一次資料であるといえる。今年度の購入により関西大学図書館は当資料の Part1 から Part5 までを所蔵することとなった。]

10 横濱正金銀行マイクロ版 第 5 期～第 7 期

359 reels

マイクロフィルム版

[明治 13 年に外国為替・金融の専門銀行として誕生し、

以来 67 年間に渡り波乱と激動の時代を刻んだ横濱正金銀行の歴史を語る未公開行内資料のマイクロフィルム版である。横濱正金銀行の実質的な後継銀行である東京銀行が 1980 年代に公刊した「横濱正金銀行全史」(全 6 巻 7 冊) 執筆の基礎的・一次資料である。近代日本の金融史・経済史研究の基礎資料であるばかりでなく、当該期における国際経済の動向を分析するための実証的な資料であるといえる。]

11 The Indonesian Hajj: The Pilgrimage to Mecca from the Netherlands East Indies

(インドネシアのハジ：オランダ領東インドからメッカへの巡礼)

2,823 microfiches

マイクロフィッシュ版

[当資料は、1870 年代から 1950 年までの膨大な数にのぼるインドネシアのイスラム教徒のメッカへの巡礼 (Hajj) に関する統計データや地元アラビアの報告書 (治安、衛生、宗教、政治等) から成り立っている。当資料はオランダのインドネシア統治下で、巡礼に関する管理がどのように行われていたかを示す貴重な資料である。また、当資料がイスラム教徒の五大義務の一つであるメッカへの巡礼の具体的な側面を記録していることから、宗教と人々の生活との関わりを明らかにすることも見込まれる。宗教学、政治学、社会学、経済学など様々な分野での活用が期待できる資料であるといえる。]

図書館自己点検・評価について

平成24年度

□ 目 次 □

自己点検・評価関係資料

- 1 基礎データ（平成24年度）…………… (1)
- 2 平成24年度図書館自己点検・評価委員会名簿…………… (19)
- 3 関西大学図書館自己点検・評価委員会規程…………… (20)

自己点検・評価関係資料

1 基礎データ（平成 24 年度）

(1) 入館者に関する統計
a 過去5年間の館別・月別開館日数
b 館別・所属別入館者数および1人当たり平均入館回数
c 館別・月別・資格別入館者数および1日当たり平均入館回数
d 時期別・時間帯別総入館者数および1日当たり平均入館者数（総合図書館）
e 地域市民への図書館一般開放利用申請者数（総合図書館・ミューズ大学図書館・堺キャンパス図書館）
(2) 図書資料の利用に関する統計
a 館別・月別図書利用者数および利用冊数
b 月別入庫検索者数（総合図書館）
c グループ閲覧室利用状況（総合図書館）
d 文献複写サービス
e 図書館間相互利用件数
f 参考業務（総合図書館）
g 利用指導
h 学内で閲覧利用できるオンラインジャーナル
i 文献・情報データベース検索回数
j キャンパス間相互利用件数（予約取寄せ）
k 利用者用パソコン設置台数
(3) 蔵書に関する統計
① 収書状況
a 図書資料の所蔵数（平成24年度末現在）
b 過去5年間の図書の受入数
c 図書資料異動状況
d 雑誌・新聞受入種類数
② 分類別所蔵図書冊数（日本十進分類法による）
③ 分類別所蔵雑誌種類数（日本十進分類法による）
④ 図書費執行額5年間の推移
(4) その他関連統計等
① 図書館職員
② 学生の閲覧座席数（平成25年4月1日現在）
③ 10年間の展示会テーマと会期
④ 資料の出陳・放映（学外からの依頼分）

(1) 入館者に関する統計

a 過去5年間の館別・月別開館日数

館	月	年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	総合図書館	平成20年度	29 (4)	30 (6)	28 (5)	30 (5)	17 (0)	27 (3)	30 (5)	26 (5)	26 (4)	25 (4)	17 (0)	18 (0)	303 (41)
平成21年度		29 (4)	25 (7)	28 (4)	30 (5)	17 (0)	27 (4)	30 (5)	25 (5)	25 (4)	25 (4)	16 (0)	19 (0)	296 (42)	
平成22年度		29 (4)	30 (7)	29 (4)	30 (5)	17 (0)	26 (2)	30 (6)	26 (5)	25 (4)	26 (5)	16 (0)	19 (0)	303 (42)	
平成23年度		29 (4)	30 (7)	28 (3)	30 (6)	18 (0)	24 (2)	30 (6)	26 (4)	25 (5)	27 (5)	17 (0)	21 (0)	305 (42)	
平成24年度		30 (6)	31 (7)	29 (4)	31 (6)	19 (0)	25 (2)	31 (5)	26 (4)	25 (5)	25 (4)	16 (0)	20 (0)	308 (43)	
高槻図書室	平成20年度	25	24	23	25	13	21	25	22	20	20	17	18	253	
	平成21年度	25	18	24	25	13	20	25	20	20	20	16	19	245	
	平成22年度	25	23	25	25	14	21	24	21	20	21	16	19	254	
	平成23年度	25	23	25	23	16	20	24	22	20	22	17	21	258	
	平成24年度	24	24	25	25	17	20	26	22	20	21	16	20	260	
ミューズ 大学図書館	平成22年度	22	23	25	25	14	21	24	21	20	21	16	19	251	
	平成23年度	25	23	25	23	16	20	24	22	20	22	17	21	258	
	平成24年度	24	24	25	25	17	20	26	22	20	21	16	20	260	

堺キャンパス 図書館	平成22年度	22	23	25	25	14	21	24	21	20	21	14	11	241
	平成23年度	25	23	25	23	16	20	24	22	20	22	17	20	257
	平成24年度	24	24	25	25	17	20	26	22	20	21	16	20	260

注1 ()内は授業期間中の日曜・祝日開館日数で内数。高槻・ミューズ・堺の各図書館(室)は日曜・祝日は開館(室)していない。

- 2 夏季一斉休業期間中の休館 8月11日～8月20日
- 3 冬季一斉休業期間中の休館 12月26日～1月6日
- 4 入学試験等による休館 2月1日～2月8日、3月2日～3月4日
- 5 年度末休館 3月28日～3月30日
- 6 臨時休館・閉館 暴風警報発令による全館休館：9月30日

b 館別・所属別入館者数および1人当たり平均入館回数

所属		館	総合図書館	高槻図書室	ミューズ大学図書館	堺キャンパス図書館
学部 学生	法 学 部	入館者数	118,012	4	772	96
		平均入館回数	37.6	0.0	0.2	0.0
	文 学 部	入館者数	95,791	17	573	106
		平均入館回数	25.9	0.0	0.2	0.0
	経 済 学 部	入館者数	75,334	3	253	11
		平均入館回数	24.6	0.0	0.1	0.0
	商 学 部	入館者数	74,001	3	418	16
		平均入館回数	24.4	0.0	0.1	0.0
	社 会 学 部	入館者数	68,645	4	357	36
		平均入館回数	19.5	0.0	0.1	0.0
	政策創造学部	入館者数	32,142	4	226	4
		平均入館回数	20.9	0.0	0.1	0.0
	外 国 語 学 部	入館者数	14,588	0	109	1
		平均入館回数	20.6	0.0	0.2	0.0
	人間健康学部	入館者数	1,148	21	2	18,555
		平均入館回数	1.1	0.0	0.0	17.0
	総合情報学部	入館者数	1,456	36,187	803	13
		平均入館回数	0.7	16.2	0.4	0.0
	社会安全学部	入館者数	670	1	21,351	5
		平均入館回数	0.8	0.0	26.2	0.0
システム理工学部	入館者数	48,513	4	412	1	
	平均入館回数	21.7	0.0	0.2	0.0	
環境都市工学部	入館者数	26,420	0	163	6	
	平均入館回数	18.5	0.0	0.1	0.0	
化学生命工学部	入館者数	45,061	1	260	15	
	平均入館回数	29.4	0.0	0.2	0.0	
工 学 部	入館者数	213	0	4	0	
	平均入館回数	6.5	0.0	0.1	0.0	
学 部 合 計		入館者数	601,994	36,249	25,703	18,865
		平均入館回数	21.4	1.3	0.9	0.7
大学院学生		入館者数	47,397	1,557	980	32
		平均入館回数	23.1	0.8	0.5	0.0
専任 教職員	大 学 教 員	入館者数	6,524	405	561	322
		平均入館回数	8.5	0.5	0.7	0.4
	高 中 幼 教 諭	入館者数	30	0	54	1
		平均入館回数	0.2	0.0	0.4	0.0
	事 務 職 員	入館者数	1,188	146	197	120
		平均入館回数	2.3	0.3	0.4	0.2
上記を除く教職員		入館者数	10,261	297	501	292
校 友		入館者数	23,359	39	1,670	246
そ の 他		入館者数	19,415	760	2,793	196
合 計		入館者数	710,168	39,453	32,459	20,074

注1 平均入館回数は、入館者数を利用対象者数(平成24年5月1日現在)で割った、一人当たりの数値である。

- 2 その他は、科目等履修生や聴講生、協定大学(関西学院・同志社・立命館・大阪府立・大阪市立・早稲田・大阪)の専任教員や大学院学生、他機関からの利用者である。
- 3 工学部は、平成19年度にシステム理工学部、環境都市工学部、化学生命工学部の3学部改編されたが、上位年次生は工学部としての所属であるため、理工系3学部と工学部で集計している。

c 館別・月別・資格別入館者数および1日当たり平均入館回数

館・資格 月		総合図書館							日平均 月～土曜日	日平均 日曜・祝日
		学部学生	大学院学生	教職員	校 友	その他	合 計			
4		54,523	5,567	2,057	2,130	1,766	66,043	2661.7	360.5	
5		73,035	5,945	2,024	1,717	1,557	84,278	3369.5	487.0	
6		64,112	5,267	1,959	2,559	1,905	75,802	2957.3	467.5	
7		120,724	5,538	1,784	2,505	1,720	132,271	4938.2	1469.5	
8		9,274	2,136	816	1,521	777	14,524	764.4	0.0	
9		21,814	3,395	1,237	1,857	1,343	29,646	1245.7	497.0	
10		57,181	5,265	1,940	2,538	2,162	69,086	2569.7	454.8	
11		52,810	4,247	1,762	2,033	1,609	62,461	2752.0	479.0	
12		43,908	3,602	1,475	1,708	1,338	52,031	2504.5	388.4	
1		90,567	3,303	1,296	1,831	1,376	98,373	4445.9	1252.3	
2		8,176	1,323	784	1,216	624	12,123	757.7	0.0	
3		5,870	1,809	869	1,744	3,238	13,530	676.5	0.0	
合 計		601,994	47,397	18,003	23,359	19,415	710,168	2572.7	660.3	
館・資格 月		高槻図書室							日平均 月～土曜日	日平均 日曜・祝日
		学部学生	大学院学生	教職員	校 友	その他	合 計			
4		4,402	186	97	6	75	4,766	198.6	-	
5		4,648	190	98	4	111	5,051	210.5	-	
6		3,793	161	91	0	100	4,145	165.8	-	
7		6,697	188	115	11	105	7,116	284.6	-	
8		348	44	24	0	17	433	25.5	-	
9		1,469	107	50	3	39	1,668	83.4	-	
10		4,135	186	94	7	98	4,520	173.8	-	
11		3,308	159	92	1	61	3,621	164.6	-	
12		2,230	109	76	0	62	2,477	123.9	-	
1		5,103	160	67	4	68	5,402	257.2	-	
2		64	34	22	1	9	130	8.1	-	
3		52	33	22	2	15	124	6.2	-	
合 計		36,249	1,557	848	39	760	39,453	151.7	-	
館・資格 月		ミュージズ大学図書館							日平均 月～土曜日	日平均 日曜・祝日
		学部学生	大学院学生	教職員	校 友	その他	合 計			
4		2,887	107	134	153	426	3,707	154.5	-	
5		3,592	146	142	145	298	4,323	180.1	-	
6		2,924	117	142	157	323	3,663	146.5	-	
7		5,796	217	192	251	293	6,749	270.0	-	
8		267	41	63	97	117	585	34.4	-	
9		879	43	89	121	128	1,260	63.0	-	
10		2,031	85	151	188	219	2,674	102.8	-	
11		1,724	48	100	109	200	2,181	99.1	-	
12		1,332	58	70	129	208	1,797	89.9	-	
1		3,928	67	113	132	165	4,405	209.8	-	
2		151	21	56	82	213	523	32.7	-	
3		192	30	61	106	203	592	29.6	-	
合 計		25,703	980	1,313	1,670	2,793	32,459	124.8	-	

館・資格 月	堺キャンパス図書館						日平均 月～土曜日	日平均 日曜・祝日
	学部学生	大学院学生	教職員	校友	その他	合計		
4	1,904	3	95	6	19	2,027	84.5	-
5	2,238	3	81	20	30	2,372	98.8	-
6	1,886	2	76	15	25	2,004	80.2	-
7	4,288	0	65	33	33	4,419	176.8	-
8	65	4	13	14	3	99	5.8	-
9	521	1	49	26	8	605	30.3	-
10	1,684	2	69	98	20	1,873	72.0	-
11	1,390	5	66	5	19	1,485	67.5	-
12	1,251	4	62	14	10	1,341	67.1	-
1	3,256	5	79	7	18	3,365	160.2	-
2	205	0	24	4	3	236	14.8	-
3	177	3	56	4	8	248	12.4	-
合計	18,865	32	735	246	196	20,074	77.2	-

注「教職員」とは上記b表の専任教職員および上記を除く教職員を示し、「その他」とは上記b表の注2に同じ。

d 時期別・時間帯別総入館者数および1日当たり平均入館者数(総合図書館)

区分	時間帯	9～10	10～11	11～12	12～13	13～14	14～15	15～16	16～17	17～18	18～19	19～20	20～21	21～22	合計	
春 学 期	授業期間	総入館者	12,350	28,273	17,657	39,706	28,936	43,104	21,316	32,445	18,162	14,287	9,117	4,967	1,747	272,067
		1日平均	147.0	336.6	210.2	472.7	344.5	513.1	253.8	386.3	216.2	170.1	108.5	59.1	20.8	3238.9
	試験期間	総入館者	4,365	5,976	5,768	8,398	8,335	9,993	6,407	6,719	4,994	3,828	2,951	1,793	511	70,038
		1日平均	311.8	426.9	412.0	599.9	595.4	713.8	457.6	479.9	356.7	273.4	210.8	128.1	36.5	5002.7
休暇期間	総入館者		2,983	2,038	2,767	3,728	3,573	3,110	3,069	2,511	1,356	568			25,703	
	1日平均		85.2	58.2	79.1	106.5	102.1	88.9	87.7	71.7	38.7	16.2			1835.9	
小 計	総入館者	16,715	37,232	25,463	50,871	40,999	56,670	30,833	42,233	25,667	19,471	12,636	6,760	2,258	367,808	
	1日平均	125.7	279.9	191.5	382.5	308.3	426.1	231.8	317.5	193.0	146.4	95.0	50.8	17.0	2765.5	

秋 学 期	授業期間	総入館者	8,867	20,352	13,822	32,544	26,711	34,039	18,596	28,653	16,397	13,070	8,619	4,787	2,006	228,463
		1日平均	106.8	245.2	166.5	392.1	321.8	410.1	224.0	345.2	197.6	157.5	103.8	57.7	24.2	2752.6
	試験期間	総入館者	3,020	4,641	4,946	7,424	7,287	8,422	5,489	5,963	4,642	3,327	2,575	1,580	534	59,850
		1日平均	232.3	357.0	380.5	571.0	560.5	647.8	422.2	458.7	357.1	255.9	198.1	121.5	41.1	4603.8
休暇期間	総入館者		2,509	2,013	2,749	3,665	3,575	3,169	3,345	2,627	1,412	589			25,653	
	1日平均		69.7	55.9	76.4	101.8	99.3	88.0	92.9	73.0	39.2	16.4			712.6	
小 計	総入館者	11,887	27,502	20,781	42,717	37,663	46,036	27,254	37,961	23,666	17,809	11,783	6,367	2,540	313,966	
	1日平均	90.1	208.3	157.4	323.6	285.3	348.8	206.5	287.6	179.3	134.9	89.3	48.2	19.2	2378.5	

日祝開館	総入館者		3,753	2,728	3,347	5,261	4,684	4,022	3,071	1,528					28,394
	1日平均		87.3	63.4	77.8	122.3	108.9	93.5	71.4	35.5					660.3

年度合計	総入館者	28,602	68,487	48,972	96,935	83,923	107,390	62,109	83,265	50,861	37,280	24,419	13,127	4,798	710,168
	1日平均	92.9	222.4	159.0	314.7	272.5	348.7	201.7	270.3	165.1	121.0	79.3	42.6	15.6	2305.7

注1 春学期 授業期間：4月4日～7月17日 試験期間：7月18日～8月2日 休暇期間：4月1日～4月3日、8月3日～9月20日

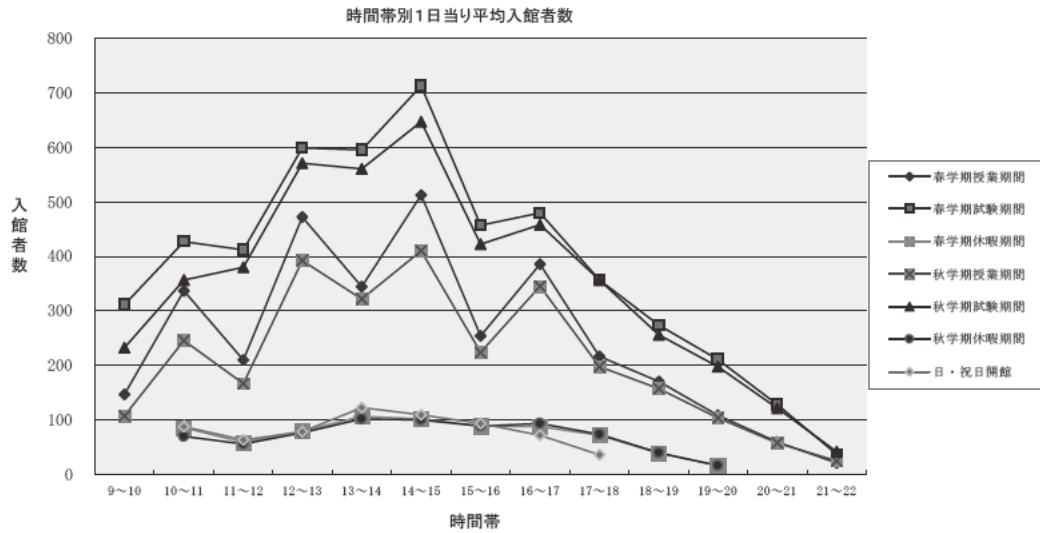
秋学期 授業期間：9月21日～12月25日、1月7日～1月16日

試験期間：1月17日～1月31日 休暇期間：12月26日～1月6日、2月9日～3月27日

2 各期間の開館日数および入館者数には、日曜祝日開館に係る数値を含まない。

3 試験期間とは、図書資料の貸出期間を3日間に短縮した日から試験終了日までを示す。

4 各小計及び年間の時間帯別平均入館者数は開館実日数で除しているが、年間総平均入館者数は年間開館日数で除している。



e 地域市民への図書館一般開放利用申請者数（総合図書館・ミューズ大学図書館・堺キャンパス図書館）

総合図書館	新規	再登録	合計	対象
平成19年度	102	-	102	吹田市在住者
平成20年度	42	50	92	吹田市在住者
平成21年度	95	51	146	吹田市・高槻市・池田市・堺市・八尾市の在住者
平成22年度	60	90	150	吹田市・高槻市・池田市・堺市・八尾市の在住者
平成23年度	59	77	136	吹田市・池田市・堺市・八尾市の在住者
平成24年度	66	89	155	吹田市・池田市・八尾市の在住者

注1 平成17年11月～平成19年3月に図書館一般開放モニター制度を実施し、110名の申込があった。

注2 平成22年9月に高槻市民利用が開始されたため、地域市民登録者数のうち高槻市在住の3名が高槻市民利用への登録変更を行った。

ミューズ大学図書館	新規	再登録	合計	対象
平成22年度	71	0	71	高槻市在住者(地域市民利用から登録変更の3名を含む)
平成23年度	46	19	65	高槻市在住者
平成24年度	68	28	96	高槻市在住者

注 平成22年9月から高槻市民利用を開始した。

堺キャンパス図書館	新規	再登録	合計	対象
平成24年度	10	0	10	堺市在住者

注 平成24年2月から堺市民利用を開始した。

(2) 図書資料の利用に関する統計

a 館別・月別図書利用者数および利用冊数

利用者区分		月												合計	
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
総合	館内閲覧	学部学生	427	723	594	628	127	273	774	726	689	429	51	36	5,477
		大学院学生	163	209	143	119	72	88	122	121	94	126	42	51	1,350
		教職員	73	78	62	56	34	55	58	49	45	46	32	46	634
		その他	194	184	248	158	152	162	168	167	195	164	168	197	2,157
		計	857	1,194	1,047	961	385	578	1,122	1,063	1,023	765	293	330	9,618
図書	館外貸出	学部学生	9,097	12,095	12,552	15,880	2,485	4,680	11,983	11,600	10,649	12,148	1,371	1,071	105,611
		大学院学生	2,471	2,421	2,227	2,226	856	1,375	2,230	1,806	1,723	1,650	522	680	20,187
		教職員	831	848	750	729	408	571	853	687	687	601	376	421	7,762
		その他	762	915	876	666	514	860	847	685	620	690	490	645	8,570
		計	13,161	16,279	16,405	19,501	4,263	7,486	15,913	14,778	13,679	15,089	2,759	2,817	142,130
合計		14,018	17,473	17,452	20,462	4,648	8,064	17,035	15,841	14,702	15,854	3,052	3,147	151,748	
		28,284	34,510	34,818	41,216	12,049	18,116	35,337	33,111	32,400	34,545	7,318	7,182	318,886	
高槻	図書室	学部学生	497	614	497	426	54	193	511	492	387	447	17	17	4,152
		大学院学生	89	91	70	70	27	46	85	78	47	62	18	11	694
		教職員	35	38	37	44	17	21	32	41	30	25	11	11	342
		その他	20	43	33	52	23	42	56	35	29	30	14	5	382
		計	641	786	637	592	121	302	684	646	493	564	60	44	5,570
		1,103	1,291	1,183	1,044	298	548	1,217	1,152	909	1,178	143	135	10,201	
ミューズ	大学図書館	学部学生	266	414	426	521	88	159	256	182	236	512	38	24	3,122
		大学院学生	42	42	41	28	21	14	25	25	26	33	8	15	320
		教職員	27	34	37	44	9	26	32	22	18	27	13	19	308
		その他	111	107	85	80	45	89	114	91	72	81	49	76	1,000
		計	446	597	589	673	163	288	427	320	352	653	108	134	4,750
		848	1,168	1,259	1,479	425	637	827	620	708	1,321	270	306	9,868	
堺キャンパス	図書館	学部学生	266	363	429	615	20	99	216	181	152	423	32	21	2,817
		大学院学生	3	1	2	1	0	1	1	1	1	2	0	2	15
		教職員	30	25	35	20	8	19	35	29	22	40	17	17	297
		その他	35	31	36	41	25	33	42	42	38	34	17	21	395
		計	334	420	502	677	53	152	294	253	213	499	66	61	3,524
		507	653	778	1,053	94	267	455	399	399	964	127	116	5,812	

注1 館内閲覧・館外貸出ともに上段は利用者数、下段は利用冊数を示す。

2 総合図書館の館内閲覧は、書庫図書の出納・取り寄せによる館内閲覧手続を行ったものを示す。

b 月別入庫検索者数（総合図書館）

利用区分		月												合計	
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
総合図書館	入庫検索	学部学生	487	984	885	984	322	568	1,282	1,175	1,093	773	80	64	8,697
	大学院学生	1,336	1,305	1,296	1,258	625	812	1,233	1,068	924	828	380	438	11,503	
	教職員	684	648	652	556	350	470	663	570	469	465	325	388	6,240	
	その他	64	67	91	69	42	55	76	82	59	39	32	63	739	
	計	2,571	3,004	2,924	2,867	1,339	1,905	3,254	2,895	2,545	2,105	817	953	27,179	

注1 入庫検索とは、図書館利用規程第13条による書庫図書の利用をいう。
 注2 「その他」とは、特別の事由により入庫を許可された研究員等を示す。

c グループ閲覧室利用状況（総合図書館）

区分 月別	月												合計	日平均 (日祝日を除く)
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
利用コマ数	76	80	83	86	29	40	70	96	76	42	20	9	707	2.76
利用者数	1,259	1,360	1,334	1,066	379	519	1,074	1,393	1,321	446	107	65	10,323	40.32

注 総合図書館3階の申し込みが必要なグループ閲覧室の利用状況である。

d 文献複写サービス

種別・月別	区分					小計
	総合図書館	高槻図書室	ミューズ大学図書館	堺キャンパス図書館		
枚電子式複写	モノクロ	704,706	18,711	10,717	1,585	735,719
	カラー	1,186	3,783	122	6	5,097
	マイクロ	9,412	0	0	0	9,412
	合計	715,304	22,494	10,839	1,591	750,228

注1 「モノクロ」はモノクロ複写とモノクロプリントアウトの合計枚数
 注2 「カラー」はカラー複写とカラープリントアウトの合計枚数

e 図書館間相互利用件数

種別 月別	国内								国外							
	提供				依頼				提供				依頼			
	閲覧	貸出	複写	合計	閲覧	借用	複写	合計	閲覧	貸出	複写	合計	閲覧	借用	複写	合計
4月	37	55	247	339	11	41	176	228	0	0	2	2	1	0	1	2
5月	45	63	365	473	9	59	274	342	0	0	3	3	0	0	1	1
6月	38	47	340	425	15	66	261	342	0	0	1	1	0	0	4	4
7月	53	83	329	465	26	50	230	306	0	0	6	6	0	0	4	4
8月	36	42	231	309	18	43	209	270	0	0	1	1	0	0	1	1
9月	37	63	323	423	9	60	193	262	0	0	1	1	0	0	0	0
10月	35	56	376	467	8	55	233	296	0	0	2	2	0	0	2	2
11月	32	67	280	379	9	44	283	336	3	0	1	4	0	0	0	0
12月	41	61	341	443	16	90	257	363	0	0	3	3	0	0	7	7
1月	30	34	249	313	16	28	157	201	0	0	1	1	1	1	2	4
2月	30	33	198	261	4	26	110	140	0	0	7	7	0	0	0	0
3月	27	46	161	234	9	42	129	180	0	0	1	1	5	0	1	6
合計	441	650	3,440	4,531	150	604	2,512	3,266	3	0	29	32	7	1	23	31

注1 提供の貸出と複写、依頼の借用と複写の件数にはキャンセル件数を含む。

f 参考業務 (総合図書館)

(件数)

区 分	学 内 利 用 者				学 外 利 用 者			合 計	
	教職員	大学院学生	学部学生	その他	校 友	諸機関	その他		
調 査	所 蔵	21	21	16	5	3	0	0	66
	事 項	0	0	1	3	1	0	0	5
	そ の 他	3	0	0	0	0	0	0	3
	計	24	21	17	8	4	0	0	74

注1 総合図書館における申込書の提出により処理した件数のみ表す。

注2 学内利用者中の「その他」には、学内他部署からの業務上の問い合わせのほか、科目等履修生および聴講生が含まれる。

g 利用指導

種 別	区 分	総合図書館			高槻図書室			ミューズ大学図書館			堺キャンパス図書館		
		件数	クラス	人数	件数	クラス	人数	件数	クラス	人数	件数	クラス	人数
①	入門ガイダンス「蔵書検索を学ぼう」	85	85	1,789	15	15	236	11	11	251	18	18	340
②	活用ガイダンス「文献のさがし方を学ぼう」	130	637	1,744	6	6	83	19	19	454	6	6	108
③	上位年次生のための入庫ガイダンス	431	184	2,393	1	1	13	19	19	454	4	4	60
④	新入生のための図書館ツアー	10	—	37									
⑤	図書館プチゼミ	39	—	94	12	—	13	6	—	16	0	—	0
⑥	音声ガイダンス	61	61	1,357									

注1 件数は実施回数、クラス数は参加したクラス数、人数は参加者のべ人数である。

注2 ①②はクラス・ゼミ・研究室対象、④⑤は個人対象

注3 ③は各図書館で実施した総合図書館地下書庫ガイダンスで、クラス単位と個人単位の総数

h 学内で閲覧利用できるオンラインジャーナル

種 類	タイトル数 (端数が不明のものは概数)	種 類	タイトル数 (端数が不明のものは概数)
ACS (American Chemical Society)	41	RSC (Royal Society of Chemistry)	43
APS (American Physical Society)	8	Sage Premier	595
beck-online	124	OECD iLibrary	724
Cambridge Journals Online	319	SpringerLINK	1,700
CiNii	7,548	Taylor & Francis	1,449
Elsevier ScienceDirect	2,233	Wiley Online Library	1,366
Emerald Fulltext	95	日経 BP 記事検索サービス	54
IEL (IEEE/IEE Electronic Library)	415	その他	1,677
JSTOR	119	合 計	18,765
Oxford Journals	255		

注1 計数処理の都合により作業時点(平成25年4月22日)での数字となっている。

i 文献・情報データベース検索回数

種 別	平成 20 年	平成 21 年	平成 22 年	平成 23 年	平成 24 年	備 考
beck-online:プレミアム版(ドイツ法情報データベース)	計数されていない	計数されていない	計数されていない	計数されていない	計数されていない	
Bibliography of British and Irish History *	—	—	—	計数されていない	12	平成 23 年 5 月～
Business Source Complete(ビジネス関連データベース)	—	—	—	—	3,640(2-12月)	平成 24 年 2 月～
CiNii (NII 論文情報ナビゲータ)	167,195	268,673	259,915	257,331	257,603	平成 17 年 4 月～
eBook Collection (EBSCOhost)	—	—	—	787	2,626	平成 23 年 7 月～
EconLit with Full Text	—	—	—	—	1,471(2-12月)	平成 24 年 2 月～
eol ESPer(有価証券報告書を含む企業情報データベース)	19,566	46,507	41,059	62,127	48,207	平成 18 年 4 月～
Financial Times Historical Archive 1888 - 2007	—	—	—	—	149(4-12月)	平成 24 年 4 月～
速報判例解説	—	—	—	90	233	平成 23 年 7 月～
法律文献総合 Index	—	—	—	200	478	平成 23 年 7 月～
法律判例文献情報(法関連文献索引) *	591	1,303	1,260	1,212	1,283	平成 18 年 4 月～
International Medieval Bibliography Online	—	—	—	計数されていない	22	平成 23 年 5 月～
ジャパンナレッジ(百科事典データベース) *	1,494	1,866	1,618	1,785	2,197	平成 17 年 4 月～
JCIF(国際金融情報センターオンラインサービス)	3,227	3,503	70	36	48	平成 18 年 4 月～
JDream II(科学技術情報索引)	84,832	69,004	64,886	61,342	42,954	
Journal Citation Reports	—	—	380	338	347	平成 22 年 4 月～
JURIS Online(独国法律情報データベース)	631	613	1,189	552	1,101	平成 16 年 10 月
官報情報データベース	9	4	1	1	2	平成 18 年 4 月～
化学書資料館(国内で発行された化学書データベース)	2,473	3,728	2,713	2,411	4,595	平成 19 年 4 月～
聞蔵IIビジュアル(朝日新聞記事索引) *	6,037	5,498	6,823	7,931	11,928	平成 18 年 10 月～
KISS △	664	3,751	1,716	7,866	6,694	平成 20 年 8 月～
公的判例集データベース	—	—	—	148	515	平成 23 年 7 月～
LEX/DB インターネット(法律情報データベース) *	6,395	5,682	6,957	7,108	5,720	平成 15 年 4 月～
Lexis.com(法情報索引)	10,552	6,267	12,142	9,306	2,190	
Magazine Plus(和雑誌記事索引)	61,609	41,437	37,394	28,289	15,682	
毎日 News パック(毎日新聞記事索引) *	1,443	1,597	1,698(4-12月)	1,877(1-3,5-12月)	3,331	平成 17 年 4 月～
MARQUIS Who's Who on the Web(人名録データベース)	64	71	—	—	—	平成 22 年 3 月終了
MathSciNet(数学文献データベース)	12,730	13,406	12,318	14,817	13,779	平成 18 年 11 月～
Mergent Online(米国企業情報データベース) *	31	計数されていない	—	—	—	平成15年11月～平成22年3月
MLA International Bibliography *	—	—	—	計数されていない	1,836(4-12月)	平成 23 年 4 月～
Mpac(マーケティング情報サービス)	2,516	3,091	2,380	6,354	9,962	平成 19 年 10 月～
日経 NEEDS-Financial QUEST(社会・地域統計) ★	11,286	6,508	203,453	12,937,605	142	平成 14 年 7 月～
日経テレコン 21(ビジネス情報データベース) ☆	581,928	626,110	812,061	1,124,522	1,497,617	平成 15 年 10 月～
OCLC FirstSearch(総合データベース)	2,672	—	—	—	—	平成 21 年 1 月終了
Proquest Basic Search(専門分野型データベース)	3,477	5,239	3245	4,085	5,545	平成 15 年 11 月～
LISA(図書館情報学文献索引)	◇	◇	◇	◇	◇	
LLBA(言語学雑誌記事・文献索引)	◇	◇	◇	◇	◇	
PsycINFO(心理学雑誌記事・文献索引)	1,628	計数されていない	計数されていない	計数されていない	4,073	平成 18 年 4 月～
Regional Business News(地域ビジネス関連データベース)	—	—	—	—	1,521(2-12月)	平成 24 年 2 月～
SciFinder Academic(旧 SciFinder Scholar 化学情報データベース)	37,405	33,626	33,971	46,256	47,879	
Super 法令 web	—	—	—	97	314	平成 23 年 7 月～
The Economist Historical Archive 1843-2006	—	—	—	—	149(7-12月)	平成 24 年 7 月～
The Times Digital Archive 1785-1985	—	—	—	—	635(7-12月)	平成 24 年 7 月～
Translation Studied Bibliography	—	—	—	—	29(4-12月)	平成 24 年 4 月～
Web of Knowledge(引用情報を含む学術文献データベース) *	9,862	12,667	12,956	14,929	14,979	
Web of Science(引用・被引用論文索引)	18,411	44,363	43,642	40,095	45,332	平成 13 年 8 月～
Web OYA-bunko(大宅壮一文庫雑誌記事索引) *	177	168	252	377	401	平成 17 年 11 月～
Westlaw(法情報索引)	2,589	計数されていない	4,197	5,621	4,766	
ヨミダス文書館(読売新聞記事索引)	10,606	8,493	7,030	7,849	13,517	平成 17 年 4 月～

注 1 各統計は、1月～12月までの合計である。また、統計値については、データベース提供機関が独自の基準で計数した値をそのまま利用している。したがって、それぞれの統計値が必ずしも同じ算出方法であるとは限らない。

2 *はログイン回数、☆は結果表示件数、★はダウンロード件数、△はページビュー数を示す。

3 表中の「—」は、当該年度が利用(統計計上)開始前または利用提供終了(提供方法変更)後であることを示す。

4 Proquest Basic Search(旧 CSA Illumina)には、ERIC、LISA、LLBA、Worldwide Political science abstracts、Sociological Abstracts が含まれる。また、平成 18 年 1 月からは SAGE Full-Text Collections、平成 18 年 4 月からは PsycINFO、平成 24 年 10 月からは ProQuest Dissertations & Theses Full Text が検索対象に追加された。◇は ProQuest Basic Search の統計値に含まれることを示す。

5 JURIS Online は平成 18 年 7 月に新システムに移行したことにより、統計値には文書取出件数(文書〈全文・要約・抄録等〉の閲覧件数)を計上している。

6 ジャパンナレッジは、平成 20 年 8 月から日国オンラインおよび日本歴史地名大系を含む。

7 SciFinder については、平成 23 年の統計より計数の方法が変更になった。

8 eBook Collection(EBSCOhost)※旧 Netlibrary については、平成 23 年 7 月のプラットフォーム変更以降の検索回数を計数している。

j キャンパス間相互利用件数(予約取寄せ)

		提供冊数(受付館)				
		総合図書館	高槻図書室	ミューズ大学図書館	堺キャンパス図書館	合計
受入冊数 (依頼館)	総合図書館		2,181	897	1,499	4,577
	高槻図書室	1,764		106	88	1,958
	ミューズ大学図書館	2,092	249		169	2,510
	堺キャンパス図書館	544	105	23		672
	合計	4,400	2,535	1,026	1,756	

k 利用者用パソコン設置台数

総合図書館	高槻図書室	ミューズ大学図書館	堺キャンパス図書館	合計
78	9	11	16	114

(3) 蔵書に関する統計

① 収書状況

a 図書資料の所蔵数(平成24年度末現在)

区分	種別	図書の冊数(冊)		定期刊行物の種類数		視聴覚資料の所蔵数(点数)	電子ジャーナルの種類(点数)
		図書の冊数	開架図書の冊数(内数)	国内書	外国書		
総合図書館		2,101,046	219,554	14,944 (2,545)	8,719 (1,544)	119,767	18,765
高槻図書室		50,151	50,151	265 (179)	241 (85)	323	-
ミューズ大学図書館		37,894	37,894	373 (154)	63 (23)	257	-
堺キャンパス図書館		34,335	34,335	148 (139)	32 (29)	29	-
法学部資料室		29,299	29,299	914 (413)	51 (22)	77	-
経商資料室		31,026	31,026	976 (537)	233 (45)	0	-
社会学部資料室		39,965	39,965	358 (358)	11 (11)	0	-
外国語学部資料室		3,906	3,906	2 (2)	30 (25)	0	-
視聴覚資料関係 (LL資料室、メディアライブラリー1・2)		24,378	-	-	-	24,378	-
法科大学院ロー・ライブラリー		9,366	9,366	129 (96)	1 (0)	0	-
会計専門職大学院資料室(図書閲覧室)		2,000	2,000	13 (13)	0 (0)	0	-
東西学術研究所		17,547	0	631 (226)	141 (27)	117	-
経済・政治研究所		19,202	0	82 (82)	1 (1)	0	-
法学研究所		15,413	0	99 (92)	21 (4)	438	-
人権問題研究室		25,294	25,294	112 (112)	1 (1)	872	-
計		2,440,822	482,790	19,046 (4,948)	9,545 (1,817)	146,258	18,765

注1 製本した雑誌等逐次刊行物は図書の冊数に加えている。

2 視聴覚資料には、マイクロフィルム、マイクロフィッシュが大半を占め、カセットテープ、ビデオテープおよびCD-ROM・DVD-ROM等を含み、図書の冊数の内数である。

3 定期刊行物の種類数には電子ジャーナルの種類数は含んでいない。下段の()の数は継続して受け入れている種類数で、内数である。

* 電子ジャーナルは総合図書館で集中管理をしている。

b 過去5年間の図書の受入数

(単位：冊)

館	年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
	総合図書館		38,141	37,199	37,889	35,247
高槻図書室		3,001	1,985	3,695	2,811	2,346
ミューズ大学図書館		－	20,793	11,813	2,344	2,944
堺キャンパス図書館		－	19,351	3,264	4,589	7,131
計		41,142	79,328	56,661	44,991	48,596

c 図書資料異動状況

(単位：点)

区分	種別	和書	洋書	マイクロ資料		その他	合計
				フィルム	フィッシュ		
取得内訳	購入	21,542	8,973	1,313	74	191	32,093
	受贈	1,447	93	0	0	11	1,551
	その他	2,224	2,199	391	31	32	4,877
	合計	25,213	11,265	1,704	105	234	38,521
	除籍抹消	15,754	1,055	0	0	0	16,809
	増減計	9,459	10,210	1,704	105	234	21,712
	期末在高	1,236,656	790,465	94,759	23,888	5,429	2,151,197

注1 ミューズ大学図書館と堺キャンパス図書館の資料は含まない。

注2 中国語・朝鮮語図書は、和書に含める。以下の統計についても同様とする。

注3 「種別」の「その他」はAV資料、CD-ROM、DVD-ROM等の資料を含む。

d 雑誌・新聞受入種類数

区分	種別	雑誌・新聞		
		和	洋	合計
取得内訳	購入	1,539	1,545	3,084
	受贈	1,126	63	1,189
	その他	59	21	80
	合計	2,724	1,629	4,353

注 ミューズ大学図書館と堺キャンパス図書館の資料は含まない。

② 分類別所蔵図書冊数(日本十進分類法による)

分類	内 訳	和	洋	合 計
000	総 記	10,735	10,905	21,640
010	図書館	5,777	4,483	10,260
020	図書・書誌学	15,669	14,379	30,048
030	百科事典	3,427	3,929	7,356
040	一般論文・講演集	16,682	1,473	18,155
050	逐次刊行物・年鑑	21,569	7,624	29,193
060	学会・団体・調査機関	1,203	442	1,645
070	ジャーナリズム・新聞	14,866	7,097	21,963
080	叢書・全集	54,392	18,402	72,794
090	郷土資料	1,225	2,304	3,529
	総記・計	145,545	71,038	216,583
100	哲 学	3,661	4,775	8,436
110	哲学各論	2,000	3,644	5,644
120	東洋思想	16,696	697	17,393
130	西洋哲学	6,302	18,637	24,939
140	心理学	10,679	14,654	25,333
150	倫理学	3,102	1,321	4,423
160	宗 教	5,059	3,819	8,878
170	神 道	2,398	47	2,445
180	仏 教	14,087	1,803	15,890
190	キリスト教	5,839	8,388	14,227
	哲学・計	69,823	57,785	127,608
200	歴 史	5,681	10,456	16,137
210	日本史	47,756	1,149	48,905
220	アジア史・東洋史	28,598	4,771	33,369
230	ヨーロッパ史・西洋史	4,446	16,661	21,107
240	アフリカ史	292	1,533	1,825
250	北アメリカ史	661	2,655	3,316
260	南アメリカ史	78	85	163
270	オセアニア史	81	157	238
280	伝 記	19,649	6,871	26,520
290	地理・地誌・紀行	28,055	6,475	34,530
	歴史・計	135,297	50,813	186,110
300	社会科学	11,543	7,927	19,470
310	政 治	35,213	46,572	81,785
320	法 律	56,946	83,896	140,842
330	経 済	80,354	92,345	172,699
340	財 政	7,026	6,400	13,426
350	統 計	8,720	5,492	14,212
360	社 会	47,358	49,022	96,380
370	教 育	40,315	13,027	53,342
380	風俗習慣・民俗学	15,367	4,197	19,564
390	国防・軍事	3,227	1,298	4,525
	社会科学・計	306,069	310,176	616,245
400	自然科学	6,830	8,657	15,487
410	数 学	8,113	14,569	22,682
420	物理学	5,214	15,873	21,087
430	化 学	6,044	14,830	20,874
440	天文学・宇宙科学	1,984	1,017	3,001
450	地球科学・地学・地質学	4,872	4,055	8,927
460	生物科学・一般生物学	5,528	8,844	14,372
470	植物学	1,049	224	1,273
480	動物学	1,855	473	2,328
490	医学・薬学	15,980	9,102	25,082
	自然科学・計	57,469	77,644	135,113
500	技術・工学・工業	14,221	21,938	36,159
510	建設工学・土木工学	15,116	11,104	26,220
520	建築学	14,259	6,094	20,353
530	機械工学・原子力工学	9,375	8,521	17,896
540	電気工学・電子工学	20,561	18,172	38,733
550	海洋工学・船舶工学・兵器	1,247	346	1,593
560	金属工学・鉱山工学	5,471	6,455	11,926
570	化学工業	6,656	7,085	13,741
580	製造工業	4,192	1,478	5,670
590	家政学・生活科学	1,463	376	1,839
	技術・計	92,561	81,569	174,130

分類	内 訳	和	洋	合 計
600	産 業	4,929	379	5,308
610	農 業	11,583	4,249	15,832
620	園芸・造園	1,097	196	1,293
630	蚕糸業	221		221
640	畜産業・獣医学	804	134	938
650	林 業	1,235	209	1,444
660	水産業	1,625	261	1,886
670	商 業	15,586	14,197	29,783
680	運輸・交通	7,834	6,512	14,346
690	通信事業	2,982	2,311	5,293
	産業・計	47,896	28,448	76,344
700	芸 術	12,593	6,077	18,670
710	彫 刻	916	289	1,205
720	絵画・書道	16,680	3,609	20,289
730	版画	815	357	1,172
740	写真・印刷	1,893	485	2,378
750	工芸	3,946	1,334	5,280
760	音楽・舞踏	5,720	1,496	7,216
770	演劇・映画	12,924	2,872	15,796
780	スポーツ・体育	5,414	1,068	6,482
790	諸芸・娯楽	1,425	164	1,589
	芸術・計	62,326	17,751	80,077
800	言 語	4,116	13,488	17,604
810	日本語	9,739	265	10,004
820	中国語・東洋の諸言語	8,307	1,041	9,348
830	英 語	5,861	7,617	13,478
840	ドイツ語	996	4,338	5,334
850	フランス語	927	2,974	3,901
860	スペイン語	401	529	930
870	イタリア語	130	391	521
880	ロシア語	346	1,330	1,676
890	その他の諸言語	366	908	1,274
	言語・計	31,189	32,881	64,070
900	文 学	11,828	10,679	22,507
910	日本文学	91,704	1,584	93,288
920	中国文学・東洋文学	26,719	762	27,481
930	英米文学	7,649	23,622	31,271
940	ドイツ文学	2,989	13,178	16,167
950	フランス文学	3,984	12,458	16,442
960	スペイン文学	1,490	10,675	12,165
970	イタリア文学	398	544	942
980	ロシア文学	1,674	3,155	4,829
990	その他の諸文学	404	1,350	1,754
	文学・計	148,839	78,007	226,846
	合 計	1,097,014	806,112	1,903,126
	その他			248,071
	図書館蔵書数			2,151,197

注1 ミューズ大学図書館と堺キャンパス図書館の資料は含まない。

2 「その他」は、個人文庫などの未分類図書を表す。

③ 分類別所蔵雑誌種類数(日本十進分類法による)

分類	内 訳	和	洋	合 計
000	総 記	4,624	955	5,579
100	哲 学	463	514	977
200	歴 史	828	337	1,165
300	社会科学	3,678	3,439	7,117
400	自然科学	664	914	1,578
500	技 術	1,668	1,595	3,263
600	産 業	662	349	1,011
700	芸 術	742	143	885
800	言 語	259	263	522
900	文 学	1,614	447	2,061
	その他	7	4	11
	合 計	15,209	8,960	24,169

注1 ミューズ大学図書館と堺キャンパス図書館の資料は含まない。

2 重複するタイトルは、カウントしていない。

④ 図書費執行額 5 年間の推移

(単位：円)

		平成 20 年度	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度
図 書	和	98,280,281	90,979,271	98,071,771	88,725,235	82,509,765
	洋	103,568,268	105,135,784	107,073,292	89,317,650	101,678,792
雑 誌	和	21,250,500	23,308,883	27,597,037	21,979,472	23,842,314
	洋	240,599,697	241,252,027	231,126,763	248,368,306	229,285,579
電子媒体		8,332,706	5,981,796	5,380,577	6,907,986	61,616,606
マイクロ資料	和	5,838,720	2,808,000	7,804,336	0	25,962,701
	洋	47,487,700	51,383,314	56,439,641	51,503,090	13,500,574
その他の資料		15,038,092	17,713,047	9,771,836	15,213,413	25,082,713
外部データベース		49,890,682	52,013,539	50,396,618	66,823,480	77,430,343
合 計		590,286,646	590,575,661	593,661,871	588,838,632	640,909,387
製 本 費		7,185,024	7,246,638	7,724,600	7,371,672	7,441,140

注 1 平成 24 年度のミューズ大学図書館の図書費執行額 21,509,321 円、堺キャンパス図書館 29,557,659 円。

2 「電子媒体」は CD-ROM、DVD-ROM 等を含む。

3 その他の資料には、追録、AV 資料を含む。

(4) その他関連統計等

① 図書館職員

	平成 20 年度	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度
専 任 職 員 〔人 数〕	29 (15)	24 (10)	24 (11)	22 (11)	22 (11)
定時職員 〔総勤務時間〕	22,026	18,217	11,050	11,050	10,680
備 考	庶務エントランス チーム業務、研究メ インチーム業務、文 庫貴重書チーム業務 にそれぞれ継続して 1 名、計 3 名の「派 遣職員」を採用。	庶務チーム業務に 1 名、研究書チーム 業務に 3 名、学習 書・レファレンスチ ーム業務に 1 名、高 槻図書室業務に 1 名、私立大学図書 館協会事務局業務に 1 名、計 7 名の「派 遣職員」を採用。	収書チーム業務に 3 名、私立大学図書 館協会事務局業務に 1 名、計 4 名の「派 遣職員」を採用。	収書担当業務に 2 名の「派遣職員」を 採用。	収書担当業務に 2 名の「派遣職員」を 採用。

注 1 定時職員は各人の勤務時間数が異なり、人数での比較が困難なため総予算時間数を記載した。

2 () 内は女子の人数で内数を示す。

② 学生の閲覧座席数 (平成 25 年 4 月 1 日現在)

図書館の名称	学生閲覧室 座席数(A)	学生収容定員 (B)	収容定員に対す る座席数の割合 A/B*100 (%)	その他の学習 室の座席数	備 考 【学生収容定員内訳】
総合図書館	2,239	23,673	9.46	-	(千里山キャンパス) ①学部 21,608 名 ②大学院 2,065 名
高槻図書室	288	2,274	12.66	-	(高槻キャンパス) ①学部 2,090 名 ②大学院 184 名
ミューズ大学図書館	134	1,040	12.88	-	(高槻ミューズキャンパス) ①学部 1,000 名 ②大学院 40 名
堺キャンパス図書館	272	1,200	22.67	-	(堺キャンパス) ①学部 1,200 名
計	2,933	28,187	10.41	-	①学部 25,898 名 ②大学院 2,289 名

③ 10年間の展示会テーマと会期

年 度	展示のテーマと講演会の演題		会 期
平成16年度	春季特別	「ローマ法の展開」	平成16年4月1日～5月5日
	秋季特別	「〈新〉生田文庫の能楽資料」 記念講演会 対談「生田秀・耕一を語る—小鼓のはなし—」	平成16年11月15日～12月18日 平成16年11月30日
	臨 時	「陳舜臣展」	平成16年5月10日～5月16日
「関西大学経済学部・商学部創設100年記念展示」		平成16年10月12日～10月23日	
平成17年度	春季特別	「日本・明治期の新聞」	平成17年4月1日～5月15日
	秋季特別	「八代集の世界—古今・新古今を中心に—」 記念講演会 「本を写すことと切ること」	平成17年11月14日～12月17日 平成17年11月29日
平成18年度	春季特別	「大阪の女流文学」	平成18年4月1日～5月21日
	商学部創設 100周年記念展示	「近世・近代における商（あきない）の諸相と商学部 における学（まなび）の礎」	平成18年5月27日～6月24日
	関西大学創立 120周年記念展示	「大坂画壇の絵画—文人画・戯画から長崎派・写生画 へ—」 記念講演会 「大坂画壇の絵画」	第1-3部、平成18年10月15日～ 12月16日 平成18年11月16日
平成19年度	春季特別	「子どもの遊びと絵本」	平成19年4月1日～5月20日
	秋季特別	「廣瀬文庫とチョーサーをめぐる本たち」 記念講演会 「廣瀬文庫とチョーサーをめぐる本たち」	平成19年11月12日～12月15日 平成19年11月29日
平成20年度	春季特別	「百珍って何？—今に引き継ぐ江戸の食文化—」	平成20年4月1日～5月18日
	特別企画展	「内藤湖南—近代日本の知の巨匠—」	平成20年6月12日～7月12日
	秋季特別	「目で見ると江戸俳諧の真髄—芭蕉・蕪村、そして俳諧の美—」 記念講演会 「芭蕉と蕪村の「奥の細道」」	平成20年10月27日～12月13日 平成20年11月17日
平成21年度	春季特別	「長谷川貞信—大阪の浮世絵師—」	平成21年4月1日～5月17日
	秋季特別	「伊勢物語の世界」 記念講演会 「『伊勢物語』の成立と享受—展示品を中心に—」	平成21年10月1日～10月31日 平成21年10月20日
平成22年度	特 別 展	「資料に描かれた象—渡来象を中心に—」	平成22年4月1日～5月16日
平成23年度	特 別 展	「大坂文人・学者の世界—江戸時代を中心に—」	平成23年4月1日～5月15日
	EUi企画	日・EUフレンドシップウィーク展示「ヨーロッパのメガネ男子」	平成23年5月20日(金)～6月3日(金)
平成24年度	EUi企画	日・EUフレンドシップウィーク展示「LOVE LETTER from Europe ヨーロッパ著名人たちのラブレター」	平成24年5月28日(月)～6月11日(月) (6月5日(火)除く)

注 展示会のうち場所を示していない場合は、総合図書館展示室において開催した。講演会はすべて総合図書館ホールで行っている。

④ 資料の出陳・放映（学外からの依頼分）

依頼機関	展示会・番組等の名称	会期・放映日	掲載・借用依頼資料	請求記号
書論研究会	第34回書論研究会大会特別展示「京都学派とその周辺」展の資料借用	平成24年8月5日	蘭亭会案内状・蘭亭会縁起及章程・附封筒	L21**7*25-4-64
			内藤湖南 蘭亭会縁起及章程	L21**7*25-4-10
			祭文鈴木虎雄	L21**7*25-4-(1,11)
			桑原隲藏 内藤虎次郎宛書簡	L21**7*25-4-61
			西村時彦 内藤虎次郎宛書簡	L21**7*25-4-59
			岡田正之 内藤虎次郎宛書簡	L21**7*25-4-58
			山本竟山宛長尾慎太郎書簡	L21**7*25-4-14
			同封 山本竟山宛長尾雨山葉書	L21**7*25-4-14
			山本竟山宛長尾慎太郎書簡	L21**7*25-4-8
			山本竟山宛長尾慎太郎書簡	L21**7*25-4-17
			廉泉啓呉芝瑛書簡(大正2年4月5日付)	L21**7*25-4-39
			褚臨黄絹本蘭亭叙跋	L21**7*11-774,775
			[湖南詩稿]	L21**7*12- 483
			(独孤僧本蘭亭序の題詩)	L21**7*11-974
			宋拓定武本蘭亭序跋	L21**7*11-561
			[詩稿] 湖南筆?	L21**7*12- 602
			題足立氏藏名人墨宝三則 蘭亭印譜序	L21**7*11-576,577
			神田香巖 漢詩	L21**7*25-4-27
			巴調 二首	L21**7*25-4-21
			磯野惟秋 漢詩	L21**7*25-4-34
			豹軒 漢詩(大正2年4月)	L21**7*25-4-36
			柚木方啓 漢詩(大正2年4月13日)	L21**7*25-4-29
			高田忠周 漢詩(大正2年3月)	L21**7*25-4-32
			湖南宛圓大迂(真)書簡(大正2年4月15日消印)	L21**7*25-4-40
			内海吉堂(復) 漢詩	L21**7*25-4-35
			竹隱雜記「癸丑四月十三日西……」	L21**7*25-4-23
			湖南宛木蘇牧書簡([大正]2年4月22日消印)	L21**7*25-4-15
			蘭亭集字詩 木村得善	L21**7*25-4-19
			久保雅友「癸丑四月十二日……」	L21**7*25-4-24
			湖南宛小栗元直書簡	L21**7*25-4-13
			山本竟山宛小栗秋堂(元直)書簡・漢詩	L21**7*25-4-16
			湖南宛岸田衡(樂善堂書葯房)書簡	L21**7*25-4-18
			奉奠 岩崎奇一	L21**7*25-4-45
			蘭亭會々□御中 岡村達(大正2年4月)	L21**7*25-4-20
			稲毛質 漢詩(大正2年4月13日)	L21**7*25-4-37
			三宅武彦 漢詩	L21**7*25-4-31
			桑山兼山(良) 漢詩(大正2年3月)	L21**7*25-4-33
			米澤裕 漢詩(大正2年4月13日)	L21**7*25-4-30
			松窓英 漢詩(大正2年4月13日)	L21**7*25-4-26
			蘇天服部加壽老 漢詩	L21**7*25-4-28
蘭亭集字詩	L21**7*25-4-12			
褚河南臨蘭亭絹本真跡 米海嶽跋 2枚	L21**7*26-808			
長尾雨山草書條幅	L21**6*93			
趙撝叔大隸書橫披	L21**6*11			
楊星吾行書條幅	L21**6*15			
羅叔言參事臨秦權條幅	L21**6*10			

			康徳陛下書 肅親王書 王壬叔先生詩翰 葉煥彬行書條幅 肅親王書蘭亭敘 劉幼丹仿古金文 何耐菴墨梅圖 湯蟄先對聯 湯蟄先對聯 升吉甫尚書七絶 清升吉甫尚書五絶 陳弢菴所贈七律 陳蘭甫先生便面書 徐東海行書條幅 羅振玉篆書 羅振玉篆書 鄭蘇戡行書大立軸 吳待秋赤壁図 趙无補寿華甲詩直幅 傅沅叔摹錢竹汀小象 羅叔言隸書對聯 羅叔言隸書對聯 鄭蘇戡総理墨蹟	L21**6*67 L21**6*28 L21**6*31 L21**6*64 L21**6*27 L21**6*26 L21**6*33 L21**6*42 L21**6*43 L21**6*60 L21**6*19 L21**6*12 L21**6*63 L21**6*7 L21**6*38 L21**6*39 L21**6*3 L21**6*22 L21**6*9 L21**6*18 L21**6*40 L21**6*41 L21**6*21
威宣園 教育研究 センター	廣瀬旭莊没後150年記念事業「廣瀬旭莊—東遊大坂・池田—」に展示のため	平成24年7月27日～ 平成24年10月14日	浪華風流名橋競ノ評/越祖主人 [著] 浪華風流月旦評名橋長短録/浮世亭笑額編1	281.631*E1*1 H*281.631*U1*1
三重県立 美術館	「極小の宇宙 手わざの粋—伊勢型紙の歴史と展開展」に展示	平成24年8月28日～ 平成24年10月14日	小紋雅話古代模様/山東京傳述	L23**900*6312
関西大学 大阪都市 遺産研究 センター	第3回大阪都市遺産フォーラム関連展示 織田作之助と「大阪」	平成24年4月14日～ 平成24年5月20日	夫婦善哉 夫婦善哉 わが町 六白金星 夫婦善哉 矢住利雄脚本 忘れじの人 織田作之助 高津中学卒業写真アルバム 船 十六夜頭巾 第三夜 見世物 夢想判官 大阪の可能性 瀬戸内海 白鷺部隊 旅への誘ひ 長沖一出征記念寄書 織田作之助書簡 織田作之助書簡 織田作之助色紙 文学雑誌第 文芸	LO2*O*1*3 LO2*O*1*2 LO2*O*1*35 LO2*O*1*13 LO2*O*1*33 LO2*O*1*40 LH2*6**319 LO2*O*1*42 LO2*O*1*45 LO2*O*1*39 LO2*O*1*44-1/2 LO2*O*1*49 LO2*O*1*47 LO2*O*1*46 LO2*O*1*43 LO2*N*6*63 LO2*O*1*63 LO2*O*1*65 LO2*O*1*66 M*051*B22 M*905*B2

大阪歴史博物館	大阪歴史博物館7階常設展示「造幣局 桜の通り抜け」展	平成24年4月9日～平成24年5月11日	浪花川崎鑄造場の風景	N8C2*721.8*18-1*30
			浪花真寫川崎鑄造場	N8C2*721.8*18-1*16
			浪花川崎鑄造場之圖	N8C2*721.8*18-1*26
奈良国立博物館	特別陳列「古事記の歩んできた道—古事記撰録1,300年—」	平成24年6月16日～平成24年7月16日	萬葉集 第一冊	CL25**1-1*1
群馬県立近代美術館	「江戸の風雅—旧きを知り新しきを創った絵師たち」展	平成24年9月15日～平成24年11月4日	浪花及澗川沿岸名勝図巻/[大岡]春卜画	C2*721.4*O1*1
			山水図巻/岡田半江画	C2*721.7*O6*3
長崎歴史文化博物館	「珍獣? 霊獣? 象が来た! 展」	平成24年4月21日～平成24年6月10日	象のみつぎ	N8*489.7*7
			[渡来大象之図並賛]/伊藤東涯写	C2*7218*Z1*1
			版画象之圖	C2*7218*T1*1
			富士見象	C2*21056*K1*2
			詠象詩/[奥田三角編]	C2*9115*O3*1
			家土産	911.29*Y1*1
			[象のかわら版]	C2*489.7*1
			享保十四己酉年四月交趾国象上京之次第記	C2*210.56*K1*1
			今度從関東御召被為登候象之形	C2*210.56*K1*3
			〃	C2*210.56*K1*4
			混雑倭草畫	721.8*17*1-1
			眉間尺象貢	911.7*T1*31
			大都會婦し:南地大評判の大象	LO2*733**20
			舶来絵象紙	N8*489.7*2
			二十四孝繪讀/仁如集堯ほか	C*159.5*N1*1
			孝行物語/[浅井了意]	C*913.61*A1*4-1/6
			二十四考絵図抄	159.5*N1*1
			二十四考評	159.5*K1*2
			廿四考図会	159.5*N2*1
			分類二十四考図	721.7*O1*1-1*2
			江口之君/月岡雪徳画	C2*159.5*E2*1
			象図	C2*489.7*2
			福善斉画譜	721.7*N6*1-1
			作物趣向種	789*K1*1-1
			東都歳時記	L22*382*77*81
			絵本写宝袋	N8*721.8*18*9
絵入り二十四考	C2*159.5*E2*1			
和漢名筆画本手本	721.8*E17*1-3			
絵本清書帳	728.8*E17*1/3			
大阪市立美術館	特別展「北斎」	平成24年10月30日～平成24年12月9日	新累解脱物語 五冊	913.65*T1*3-1/5
			劇場画史 二冊	772.4*R1*1/2
			今昔庚申譚卷四 一冊	L24**5-309*4
			[許多脚色帖] 六 一帖	C*774.4*A1*6
			舞扇南柯話(役割番付) 一枚	F3*774.4*S1*3-69
池田市立歴史民俗資料館	特別展「廣瀬旭莊と池田・大阪」	平成24年10月19日～平成24年12月2日	稲東家資料 日録 文久3年	ア 03-10-6
関西大学大阪都市遺産研究センター	第4回大阪都市遺産フォーラム「道頓堀今昔—芝居画家山田伸吉の世界—」	平成24年12月1日～平成24年12月15日	なにわ歳時記:忘れかけてる庶民史	LO2*A*10*1
			道頓堀物語:小説 上方芸人譜	LO2*M*43*2
			大阪希望館	LO2*N*14*7
			味にしひがし	LO2*I*12*1
			新・おんながた考	LO2*H*1*10

			味の芸談	LO2*H*1*6
			勝関	LO2*H*1*42
			SYOUCHIKU-ZA NEWS 1929-1929	M*778.05*S5
			〃 1928-1928	〃
			〃 1928-1928	〃
			1934	M*778.05*S9
			[大阪] 松竹座ポスター	LO2*S*115*1
堺市文化館 アルフォ ンス・ミ ュシヤ館	企画展「ミュシヤを愛した 日本人」	平成24年11月17日 ～平成25年3月10日	Le Japon artistique : documents d'art et d'industriel	F4*702.1*B1*1-1
			Le Japon artistique : documents d'art et d'industrie2	F4*702.1*B1*1-2
			葛飾北斎傳 上・下	LM*721.8*11*1/2
			中學世界 8 (1)	M*051*C16
			〃 9 (7)	〃
			〃 9 (8)	〃
			〃 14 (1)	〃
			〃 15 (3-4)	〃
			〃 15 (9)	〃
			〃 16 (1)	〃
			〃 16 (9)	〃
			〃 16 (16)	〃
			方寸 第2巻第2号 復刻版	M*705*H4
			〃 第4巻第7号 〃	〃
ほととぎす 第4巻第1号復刻版	M*911.4*H2 (N)			
虞美人草	913.7*N4*12			
テレビ 西日本	華丸・大吉のなんしよう と?	平成24年4月7日	象之繪巻物/尾形探香著	C*721.8*Z1*1
NHK 大阪放送局	歴史秘話ヒストリア	平成24年7月4日	婦人画報 昭和6年7月号	M*051*F7
株式会社 プラスミック CFP	まちの記憶	平成24年6月1日～ 平成24年6月13日	伊勢物語 (慶長刊)	C*913.32**3
NHK 大阪放送局	歴史秘話ヒストリア	平成24年12月5日	藤門雑記 (第2) / 岩崎美隆編	LI2*911.204*I2*2-30
株式会社 ネクサス	謎解き!江戸のススメ	平成24年11月12日	[象のかわら版]	C2*489.7**1
			象之繪巻物/尾形探香著	C*721.8*Z1*1

2 平成 24 年度 図書館自己点検・評価委員会名簿

	氏 名	備 考
規程第 5 条 1 号委員	北 川 勝 彦	委員長・図書館長 ※任期：平成 24 年 9 月 30 日まで
規程第 5 条 1 号委員	内 田 慶 市	委員長・図書館長 ※任期：平成 24 年 10 月 1 日より
規程第 5 条 2 号委員	柴 田 真 一	学術情報事務局次長（図書館担当）
規程第 5 条 3 号委員	新 熊 隆 嘉	図書委員会委員 （経済学部選出）※任期：平成 24 年 9 月 30 日まで
	清 水 崇	図書委員会委員 （経済学部選出）※任期：平成 24 年 10 月 1 日より
	西 山 哲 郎	図書委員会委員（人間健康学部選出）
	西 村 弘	図書委員会委員（社会安全学部選出）
	矢 島 辰 雄	図書委員会委員（化学生命工学部選出）
規程第 5 条 4 号委員	金 東 滢	図書館事務室
	芝 野 由紀子	図書館事務室
	佃 彦 志	図書館事務室

【事務局（図書館事務室）】 金 東滢

3 関西大学図書館 自己点検・評価委員会規程

制定 平成6年1月28日

(趣 旨)

第1条 この規程は、関西大学図書館規程第6条第2項の規定に基づき、関西大学図書館自己点検・評価委員会（以下「委員会」という。）について必要な事項を定めるものとする。

(任 務)

第2条 委員会は、図書館における教育研究の支援活動及び管理運営の自己点検・評価の取り組みを行うため、次の事項を行う。

- (1) 自己点検・評価の方針の策定並びに点検項目の設定及び変更
- (2) データの収集、分析及び検討
- (3) 報告書の作成
- (4) その他自己点検・評価及び第三者評価に関する事項

(各機関の協力)

第3条 委員会は、前条第2号に規定するデータ収集のため、それに係わる各機関に対して協力を求めることができる。

(報 告)

第4条 委員会は、自己点検・評価の結果を図書委員会に報告するとともに、学校法人関西大学自己点検・評価委員会の求めに応じて報告を行う。

(構 成)

第5条 委員会は、次の者をもって構成する。

- (1) 図書館長
- (2) 学術情報事務局次長（図書館担当）
- (3) 図書委員のうちから図書館長が指名する者若干名
- (4) 図書館事務職員から若干名

(委員長等)

第6条 委員会に委員長を置き、図書館長をもって充てる。

- 2 委員長に事故あるときは、学術情報事務局次長（図書館担当）がその職務を代行する。

(委員の任期)

第7条 第5条第3号及び4号に規定する委員の任期は2年とする。ただし、再任を妨げない。

- 2 前項の委員に欠員が生じたときは、補充しなければならない。この場合において、後任者の任期は前任者の残任期間とする。

(運 営)

第8条 委員会は、委員長が招集し、その議長となる。

- 2 委員会は、委員の3分の2以上の出席をもって成立し、議事は出席委員の過半数の同意をもって決する。
- 3 委員会は、必要に応じて、委員以外の者に出席を求め、その意見を聴くことができる。

(事 務)

第9条 委員会の事務は、図書館事務室が行う。

附 則

この規程は、平成6年4月1日から施行する。

附 則

この規程（改正）は、平成8年4月1日から施行する。

附 則

この規程（改正）は、平成12年4月1日から施行する。

附 則

この規程（改正）は、平成13年10月1日から施行する。

附 則

- 1 この規程（改正）は、平成15年4月1日から施行する。
- 2 この規程（改正）施行後最初に第5条第3号及び第4号の規定により選出された委員の任期は、第7条第1項本文の規定にかかわらず平成16年3月31日までとする。

附 則

この規程（改正）は、平成18年10月12日から施行し、平成18年8月1日から適用する。

附 則

この規程（改正）は、平成21年4月1日から施行する。

平成24年度大学図書館近畿イニシアティブ基礎研修 「初任者研修」を受講して

嶋田 有理香

はじめに

大学図書館近畿イニシアティブ（略称「近畿イニシア」、英文略称 KIRALI）は、平成17年（2005年）の発足以来毎年研修を開催しており、2年目の平成18年（2006年）からは「初任者研修」と「中級研修」とが交互に開かれている。

平成24年度は図書館業務経験3年未満の図書館職員を主な対象とする「初任者研修」が開催され、筆者は図書館配属2年目、4月に収書担当となり3カ月余りであった6月に本研修に参加した。概略は以下のとおりである。

研修名：平成24年度大学図書館

近畿イニシアティブ基礎研修「初任者研修」

研修日：平成24年6月28日(木)～29日(金)

会場：大阪大学附属図書館総合図書館
(豊中キャンパス)

本研修は、図書館業務についての研修として筆者が初めて参加したものであったが、このような研修が実施されているということや、近畿イニシアのような大学図書館間を結ぶ組織によって様々な活動が行われているということなどを想像したことがなかったため、初めてそれを知ったときには少なからず驚きではあった。初任者向けに研修を行うということのご時世では悠長な印象を受けないでもないかもしれないが、個々の職場では実施することが困難になってきている網羅的な初任者向けの研修という位置づけでもある。

実際、右記の日程表のとおり、研修の中心は図書館の実務をわかりやすく紹介する講義である。他に、受講者によるプレゼンテーション演習を含むワークショップがあり、参加者は主に関西圏の大学図書館勤務職員60名余りであった。

ここでは、6つの講義内容のうち「資料収集業務」と「目録・分類・OPAC」、そして「情報リテラシ

ー教育」の3つに絞って紹介していきたい。講義のプレゼンターは、各内容の業務担当歴がある図書館員であり、それぞれ異なる大学の方々であった。講義の準備をすることが業務を整理し直す作業を兼ねることにもなり有益であったと話される方も多く、受講者に対して、経験を積んだ後に今度は発表者側として再度この研修に参加してもらいたいと呼びかけられていた。

平成24年度 大学図書館近畿イニシアティブ基礎研修「初任者研修」日程表

月日	時間帯	時間	内容
6月28日 (木)	9:30～10:00	30	受付
	10:00～10:10	10	開会、運営委員・専門委員紹介
	10:10～10:40	30	運営委員長課題提唱 京都大学 榎谷 泰文事務部長
	10:40～10:45	5	(休憩)
	10:45～11:35	50	研修1 資料収集業務 大阪大学 吉田 弥生
	11:35～12:45	70	(休憩)
	12:45～13:20	35	アイスブレイク 専門委員会
	13:20～14:10	50	研修2 目録・分類・OPAC 奈良県立医科大学 大瀬戸 貴己
	14:10～14:15	5	(休憩)
	14:15～15:05	50	研修3 閲覧・ILL・レファレンス業務 京都大学 赤澤 久弥
	15:05～15:20	15	(休憩)
	15:20～16:10	50	研修4 雑誌業務 武庫川女子大学 関本 直子
	16:10～16:20	10	事務連絡
	16:20～17:00	40	大阪大学附属図書館見学会(希望者のみ)
17:00～17:20	20	(休憩・移動等)	
17:20～19:10	110	情報交換会(希望者のみ)	

月日	時間帯	時間	内容
6月29日 (金)	9:30～9:50	20	受付
	9:50～9:55	5	事務連絡
	9:55～10:45	50	研修5 情報リテラシー教育 滋賀医科大学 寺升 夕希
	10:45～10:50	5	(休憩)
	10:50～11:40	50	研修6 図書館の情報発信 大阪大学 末田 真樹子
	11:40～12:40	60	(休憩)
	12:40～16:45	245	ワークショップ(コミュニケーション研修) テーマ:「話す(伝える)技術」 講義・プレゼンテーション演習 追手門学院大学 原田 章 准教授 ※休憩、講評を含む
	16:45～17:00	15	閉会

1 資料収集業務

大阪大学 吉田弥生氏

資料収集業務とは、狭義には、図書館に受け入れるための資料を選び、発注し、納品された資料を検収（図書館の資料として登録）するまでの「受入業務」を指す。広く捉えるならば、受け入れた資料に対する支払いや、書棚に並べられた後の資料の保存・管理に関する事、さらに、汚れたり破れたり、はたまた行方不明となる等々の理由により図書館から除却される（出ていく）資料の処理までもを含めることができる。

ここで必要となる知識としては、まずは出版流通に関することがあると述べられた。例えば、巷に流通する媒体は多様化しており、図書や逐次刊行物（いわゆる雑誌）をはじめ、CDやDVDなどの視聴覚資料、マイクロ資料、さらに、データベースや電子ブックといったオンライン上の資料も普及してきている。冊子体の「図書」だけでなく、多種多様な「資料」を理解しておくことが必要となるということだが、つまり著作権の扱いや契約形態、管理方法など、諸々のことが単一、単純ではなくなっているのである。

また、これらの資料を提供するサービス対象である利用者に対する知識も求められる。利用者が求めているもの、大学で行われている教育・研究活動、世の中の動向など最新のトピックスについていく必要がある。

会計事務に関することも知っておきたい。経理や資産管理などの会計規程は個々の大学によって異なり、その中にさらに図書館としての規程があるところも多い。イメージとしては浮世離れしたところもあるかもしれないが、規模の大小を別にしても、図書館は例えば、日々資料を購入するための資料費を執行しているのであり、この会計がらみの事務を無視することはできない。

次に、資料収集業務をとりまく環境の変化として、3点を挙げられていた。まず1点目は、前述の資料費の厳しい状況である。図書館予算の減少と、電子ジャーナルの価格高騰により、減ることはあっても増えることはないというのがどこも共通する資料費の現状である。その減少傾向について、文部科学省の「学術情報基盤実態調査」（平成22年度）の結果を抜粋して説明されていたので、改めて拙稿を記し

ている3月現在の最新の統計（平成23年度版）の数字を、私立大学に限ってここにも抜き出しておく（注1）。

図書館資料費総額（単位：百万円）

平成12年度	48,790
平成18年度	49,791
平成19年度	49,404
平成20年度	48,754
平成21年度	47,438
平成22年度	46,634

大学総経費に占める図書館資料費の割合

平成12年度	1.7%
平成18年度	1.3%
平成19年度	1.3%
平成20年度	1.3%
平成21年度	1.3%
平成22年度	1.2%

また、増加傾向が継続する電子ジャーナルの経費に関する統計（私立大学）も併せて載せておく（注2）。

電子ジャーナルにかかる総経費（単位：百万円）

平成18年度	5,633
平成19年度	7,397
平成20年度	9,274
平成21年度	10,570
平成22年度	11,000

資料収集業務をとりまく環境変化の2点目は、電子ブックの導入本格化である。背景には、日本語の学術書の電子化が進み、個人だけでなく機関向けの市場も活性化してきている環境がある。

講義で紹介された、学術図書館研究委員会（英文略称 SCREAL）が2011年10月から12月に、国内45機関に所属する教員、研究者、および博士後期課程大学院生に行ったアンケート調査（注3）によると電子書籍を利用できる端末（iPad、Kindle等）を教育・研究に利用しているとした回答者は25.8%であり、45.7%が「今後は利用したい」と回答している。また、電子ジャーナルについては、自然科学系では9割以上が、人文社会系でも7割以上の回答

者が「月1回以上利用」していると回答していることを受けて、本調査速報版の表題では、「電子ジャーナルは研究の日用品となり、電子書籍も使われ始める」と謳っている。ちなみに、この「図書館フォーラム」も数年前より、冊子体からウェブサイト上での掲載へと電子化されている。また、少し古いデータであるが、全国大学生生活協同組合連合会「学生の消費生活に関する実態調査」(平成22年10月実施)によると、大学生の1日の平均読書時間は「冊子」27.0分、「電子書籍」6.1分で、全体の約三分の一が全く読書をしないということである(注4)。

このように電子資料が普及する中で、管理者側として、冊子体の図書とは異なる複雑な購入(契約)形態を検討する必要や、購入した資料については利用者にどのようにナビゲートするのかといった課題が発生してきている。

最後の3点目として、前述2点の変化をふまえ、蔵書の構築・管理方針の再編成を迫られている現況について述べられ、限られた予算の中で、また、電子ブックの導入が本格化する中で、どのような収集方針を打出し、蔵書の中では何を残し、何を不用とするのか。利用スタイルの変化にどのように対応するのか。全体的な方針を再編する必要があると締めくくられた。

2 目録・分類・OPAC

奈良県立医科大学 大瀬戸貴己氏

図書の目録とは、その図書がどのようなもので、どこにあるか、検索できるものである。まず説明を受けたのは冊子体の図書の目録についてである。分類の問題点としては、複数の主題を持つ図書も1カ所にしか配架できないため、同じ主題と考えられる図書が散らばってしまうことがあるというデメリットがある。

このお話から思い浮かんだのは個性的な棚作りをする書店である。街中から書店が消えていく一方で、出版社別に並べるのではなく、独自の視点で変わった棚作りをしたり、著名人の本棚を再現した売り場を設けたりと言った試みを取り上げるニュースを目にすることがある。これを大学図書館に応用するならば、昔からある取組みではあるが、テーマを設定し、その関連本の展示コーナーを一角につくるような企画がそれに近い意図があるものとして捉えるこ

とができるかもしれない。テーマ展示は、本と本の有機的なつながりを視覚的に訴えやすく、同じ主題の図書が散らばってしまうという分類の弱点を補うことができるだろう。分野の垣根を越えた学びを、ということは昨今よく聞かれるが、そういった点や、図書館にあまり足を運ばない層の学生を惹きつけるという意味でも効果を期待したいところである。

さて、ここまで述べてきた分類は、目録のうち、どこにあるかを示す所蔵に関する情報だが、目録を構成するもう一つの要素が、その図書がどのようなものであるかを表わす書誌情報である。本学を含め大学図書館などでは、国立情報学研究所(略称NII)が提供するシステム「総合目録データベースNACSIS-CAT」に参加し、書誌情報を構築・共有している。共有することによって目録業務の負担を減らそうというのが目的の一つであるが、講義では、このNASIS-CATの品質が低下していることも課題として取り上げられた。

スキルの低下や各参加館の実施体制の変化が、重複して書誌のデータを登録してしまうといった質の低下につながっているということであったが、当初はその理由をあまり実感できなかった。というのも、書誌とは書名や著者などの図書の個別情報であるという風に理解しており、Xが書いた『XX』という、XXXX年に刊行されたXXX頁の本、という程度の認識でいたため、それほど間違えようがないように思えたからである。これは間違いではないのだが、無数の資料の中からのたった一つの資料を確かにそれであると特定するための情報であり、かつ、多数の参加館が共有するためには統一したルールに則ってその情報を記述する必要があることから、そう簡単でもないことは実際に書誌作成を行ってみると理解することができた。本学では現在、目録作業の大半を業者に委託しているが、筆者は国立情報学研究所主催の「目録システム講習会(図書コース)」に参加した際に書誌作成の作業を疑似体験する機会を得た。体験してみることによって、例えばピリオド一つとってみてもその使い方には法則や意味があり、なかなか一筋縄ではいかないものだとしみじみした。実際、この作業に誤りがあれば、後々、この書誌情報はこれこれの間違いではないでしょうか、とって参加館同士で確認し、データの微修正をする「レコード調整」という作業が発生してしまうことにもつながるのである。

講義では最後に電子資料についても触れられ、冊

子体と電子版という異なる形態の資料を扱うようになった現在の図書館では、これら相互にリンクさせる、あるいは、統合的に検索できるようにするという管理システムを構築する必要があり、何より、利用者と資料とを的確に結びつけることが目録の役割・課題である述べられた。

3 情報リテラシー教育

滋賀医科大学 寺升夕希氏

冒頭に、そもそも「情報リテラシー」とは、というところでアメリカの大学・研究図書館協会 The Association of College and Research Libraries (略称 ACRL) の「高等教育のための情報リテラシー能力基準」が紹介された。それによると、情報リテラシーとは「情報が必要なときに、それを認識し、必要な情報を効果的に見つけ出し、評価し、利用することができる」能力であると定義づけされている(注5)。また、そこに情報リテラシーが身に付いた人間とは、「学び方を学んだ者」であり、あらゆる「問題や決断に必要な情報を見つけることができるため、生涯学習への準備ができています」と述べられているのは興味深い。

ちなみに、今回拙稿を記す中で ACRL について検索してみると、大学・研究図書館の10のトレンドを発表している記事を発見した。目新しさはないものの、その2012年版ではやはり「デジタル保存」や、「情報技術」、「モバイル環境」といった項目が挙げられている(注6)。

さて、前述のように情報リテラシー教育の観点からは「自立した情報利用者の育成」が必要であると

講義では述べられたが、その意味では図書館や教育機関は利用者にとのよう、また、どこまで踏みこんでアプローチするのか、アプローチしすぎることによっていわば「答えを教える」ことになってしまわないように、という狭間でさじ加減が難しいところであろう。

おわりに

ここでは本研修の講義内容の一部を述べたが、そこで触れられこと以外にも、各館特有のノウハウや業務があるであろうし、あるいは、図書館界や大学業界、出版業界等の様々な動きもある。本研修を通じて、幅広い内容を持つ図書館業務について吸収しながら進んでいきたいと考えることができた次第である。

引用・参考文献

- 注1、2) 文部科学省 HP 「平成 23 年度「学術情報基盤実態調査」の結果報告について」(http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/24/06/1322573.htm)
- 注3) 2011 年 SCREAL 調査結果 (<http://www.screal.jp/>)
- 注4) 文部科学省生涯学習分科会 (第 59 回) (http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo2/siryou/attach/1312706.htm)
- 注5) Presidential committee on Information Literacy: Final Report (<http://www.ala.org/acrl/publications/whitepapers/presidential>)
- 注6) College & Research Libraries News (C&RL News) 2012 年 6 月号 (<http://crln.acrl.org/content/73/6/311.full>)

(しまだ ゆりか 図書館事務室)

第14回図書館総合展に参加して

大上良樹

1 はじめに

図書館総合展とは、図書館関係者向けの見本市のことで、企業ブースの出展だけでなく、フォーラムなども開催される業界最大のイベントのことである。ちなみに、第1回は1999年に東京国際フォーラムで開催された。

公式ホームページ (<http://2012.libraryfair.jp/>) では、以下のように説明されている。

『図書館を使う人、図書館で働く人、図書館に関わる仕事をしている人達が、“図書館の今後”について考え、「新たなパートナーシップ」を築いていく場です。当日会場では、図書館にまつわる様々なフォーラムやプレゼンテーション、多様な団体によるポスターセッション、そして企業による最新の技術や動向が伺えるブース出展など、様々な企画が行われます。図書館関係企業、図書館職員の皆様はもちろんのこと、学生や一般の方々のご参加を心よりお待ちしております。』

図書館事務室へ異動となり2年目を迎えた私にとって、大学図書館に関する最新の情報が得られるまたとない機会であると考え、参加を希望した。

本年の概要は以下のとおり。

【開催日時】 2012年11月20日(火)～11月22日(木)

10:00～18:00

【会 場】 パシフィコ横浜

【主 催】 図書館総合展運営委員会

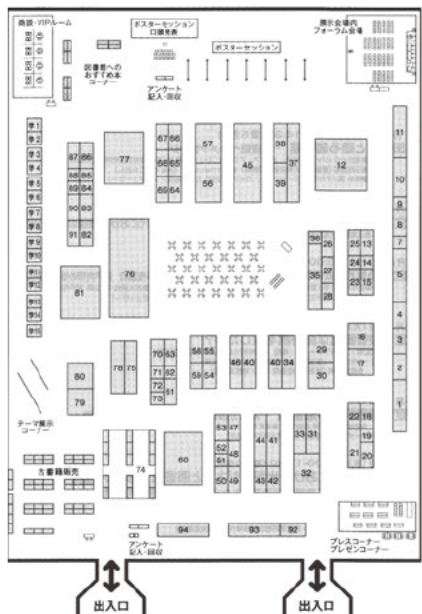
【企画・運営】 JCC カルチャー・ジャパン

私は、3日間のうち2日目の11月21日(水)に参加し、午前中は出展者のブースを見学した。出展者の一覧は右記の出展者小間番号リストと小間配置図(「第14回図書館総合展ガイドブック」より抜粋)を参照したい。業界最大のイベントといわれるだけのことはあり、約100余りの企業や団体が一同にブースを設けている会場の景色は圧巻であった。その中

からは、「富士通株」のブースで、平成25年2月以降に稼働予定の新図書館システム「iLiswave-J

出展者名	小間番号	出展者名	小間番号
アイビーエム	97	アイビーエム	75
アイビーエムシステムズ(株)	29	アイビーエムシステムズ	65
アカドックシステム(株)	60	アイビーエムシステムズ	48
アイビーエムシステムズ(株)	52	アイビーエムシステムズ	13
アイビーエムシステムズ(株)	83	アイビーエムシステムズ(株)	98
アイビーエムシステムズ(株)	80	アイビーエムシステムズ(株)	99
アイビーエムシステムズ(株)	26	アイビーエムシステムズ(株)	77
アイビーエムシステムズ(株)	87	アイビーエムシステムズ(株)	84
アイビーエムシステムズ(株)	31	アイビーエムシステムズ(株)	60
アイビーエムシステムズ(株)	81	アイビーエムシステムズ(株)	97
アイビーエムシステムズ(株)	51	アイビーエムシステムズ(株)	27
アイビーエムシステムズ(株)	41	アイビーエムシステムズ(株)	93
アイビーエムシステムズ(株)	64	アイビーエムシステムズ(株)	62
アイビーエムシステムズ(株)	24	アイビーエムシステムズ(株)	12
アイビーエムシステムズ(株)	81	アイビーエムシステムズ(株)	19
アイビーエムシステムズ(株)	17	アイビーエムシステムズ(株)	23
アイビーエムシステムズ(株)	62	アイビーエムシステムズ(株)	78
アイビーエムシステムズ(株)	97	アイビーエムシステムズ(株)	93
アイビーエムシステムズ(株)	1	アイビーエムシステムズ(株)	41
アイビーエムシステムズ(株)	3	アイビーエムシステムズ(株)	5
アイビーエムシステムズ(株)	80	アイビーエムシステムズ(株)	44
アイビーエムシステムズ(株)	10	アイビーエムシステムズ(株)	42
アイビーエムシステムズ(株)	29	アイビーエムシステムズ(株)	52
アイビーエムシステムズ(株)	30	アイビーエムシステムズ(株)	85
アイビーエムシステムズ(株)	72	アイビーエムシステムズ(株)	13
アイビーエムシステムズ(株)	81	アイビーエムシステムズ(株)	73
アイビーエムシステムズ(株)	35	アイビーエムシステムズ(株)	7
アイビーエムシステムズ(株)	94	アイビーエムシステムズ(株)	66
アイビーエムシステムズ(株)	94	アイビーエムシステムズ(株)	9
アイビーエムシステムズ(株)	32	アイビーエムシステムズ(株)	92
アイビーエムシステムズ(株)	69	アイビーエムシステムズ(株)	34
アイビーエムシステムズ(株)	7	アイビーエムシステムズ(株)	34
アイビーエムシステムズ(株)	69	アイビーエムシステムズ(株)	16
アイビーエムシステムズ(株)	51	アイビーエムシステムズ(株)	46
アイビーエムシステムズ(株)	54	アイビーエムシステムズ(株)	81
アイビーエムシステムズ(株)	92	アイビーエムシステムズ(株)	22
アイビーエムシステムズ(株)	96	アイビーエムシステムズ(株)	75
アイビーエムシステムズ(株)	11	アイビーエムシステムズ(株)	77
アイビーエムシステムズ(株)	4	アイビーエムシステムズ(株)	83
アイビーエムシステムズ(株)	87	アイビーエムシステムズ(株)	44
アイビーエムシステムズ(株)	25	アイビーエムシステムズ(株)	38
アイビーエムシステムズ(株)	14	アイビーエムシステムズ(株)	76
アイビーエムシステムズ(株)	56	アイビーエムシステムズ(株)	33
アイビーエムシステムズ(株)	21	アイビーエムシステムズ(株)	91
アイビーエムシステムズ(株)	81	アイビーエムシステムズ(株)	91
アイビーエムシステムズ(株)	91	アイビーエムシステムズ(株)	39
アイビーエムシステムズ(株)	50	アイビーエムシステムズ(株)	27
アイビーエムシステムズ(株)	53	アイビーエムシステムズ(株)	86
アイビーエムシステムズ(株)	62	アイビーエムシステムズ(株)	59
アイビーエムシステムズ(株)	32	アイビーエムシステムズ(株)	88
アイビーエムシステムズ(株)	97	アイビーエムシステムズ(株)	45
アイビーエムシステムズ(株)	81	アイビーエムシステムズ(株)	71
アイビーエムシステムズ(株)	91	アイビーエムシステムズ(株)	60
アイビーエムシステムズ(株)	43	アイビーエムシステムズ(株)	60
アイビーエムシステムズ(株)	54	アイビーエムシステムズ(株)	60

小間配置図



V3」の特徴や新機能について説明を受けた。

午後からは当日開催された2つのフォーラムに出席した。以下にその内容を報告することとしたい。

2 「図書館の業務委託導入は正解であったか」

図書館の委託戦略を4大学と語る

【パネルディスカッション】

講師：中元 誠氏（早稲田大学 図書館事務部長）

大川龍太郎氏（成城大学 図書館運用課長）

堀口 和弘氏（関西大学 図書館事務長）

井上 弓子氏（龍谷大学 図書館事務部課長）

ファシリテーター：奥田 悠子氏

（株式会社キャリアパワー取締役事業本部長）

株式会社キャリアパワーの主催のもと、13：00～14：30の90分間で行われた。フォーラムは事前の予約で満席となっており、キャンセル待ち30名超、当日立ち見希望の方も来られるなど、図書館における業務委託導入に関する関心の高さが伺えた。

初めに、別紙配付資料に基づき、スケジュール紹介が行われた。続いて、開会挨拶があり、第1部の開会となった。以下、スケジュールごとに内容を記載する。

(1) 第1部

第1部は「受託側から見た委託を取り巻く環境の変化」というテーマで、株式会社キャリアパワー取締役事業本部長奥田悠子氏より、レジメに基づき、以下の3つの項目について解説があった。

ア 17年前、図書館業務委託導入時の状況

イ 競争原理と弊社の考え方

ウ 業務委託におけるコンプライアンス

- 非正規社員の実態
- 有期契約終了時対応の考え方
- 派遣法との関連
- 適正な委託運営のために

アでは、まず、京都の総合大学で人材派遣を始めた経緯の説明があった。きっかけは、利用者からの開館時間の延長要望で、コストを抑えながらいかに利用者の要望に応じていくか課題であった中、図書館は専門業務が多く過去から人事異動が難しい部署であり、定年退職を迎える人が増えてきた現状であった。そのため、このままでは専門的な業務を継承

していくことが困難であるという結論となり、委託導入に踏み切ったとのことである。

イでは、キャリアパワー以外にも参入する企業が増え、委託料の値崩れが起こったため、コスト削減のための委託料金を見直す取り組みを行ったと説明があった。キャリアパワーでは、スタッフを安定させることに重点をおいており、そのため、「研修メニュー」を準備しているのはもちろん、「コース選択」、「評価制度」についても、設けている。

さらに、長期的な視点から、Win Win Winの関係を築くこと（これを解説では、「三方よし」と説明されていた。三方＝就業者〔スタッフ〕、委託先〔大学図書館〕、受託企業〔キャリアパワー〕）をモットーにしているとの説明があった。これは、本学での業務委託の方々を見ていても感じる部分であり、「人」を大事にしていることが非常に伝わる内容であった。

ウでは、2012年10月に改正された「派遣法」、2013年4月から施行される「改正労働契約法」に関して触れられたあと、キャリアパワーが委託のProfessionalとして、①図書館の専門知識、②労務管理能力、③委託運営の経験と実績、④労働問題、法的な知識、の4点を武器とし、今後の委託業務に取り組んでいくとの説明があり、第1部は終了となった。

(2) 第2部

第2部は、「図書館の委託戦略を4大学と語る」というテーマで、早稲田大学図書館事務部長中元誠氏、成城大学図書館運用課長大川龍太郎氏、関西大学図書館事務長堀口和弘氏、龍谷大学図書館事務部課長井上弓子氏の4名の講師と、第1部の解説をされた奥田氏をファシリテーターとしてパネルディスカッションが行われた。

まず、初めに、早稲田大学中元氏より、キャリアパワーが図書館へ人材派遣を始めてからの今日に至るまでの17年間で大学がどのように変わったか、大学の数、専任職員数の数の変化について触れられた。

○大学数の変化

年/大学種別	国立	公立	私立
1997年	98	57	431
2011年	86	81	602

○専任職員（平均数）の変化

年 / 大学種別	国立	公立	私立
1997年	24	9	13
2012年	20	4	6

大学の数は17年間で1.3倍増加しているが、2012年の時点で、私立大学の定員割れの割合は45.8%になっている。専任職員数で見ると、国立は善戦しているが、公立と私立では、半減以下となっている。こういった状況の中で図書館サービスをどのように考えていくかが問題となるが、図書館サービスというものは、人が減ったからといってサービスの縮小はできない業務である。専任職員が減少していく中、一つのやり方として業務委託を行うことが考えられたとの説明があった。

次に、実際の業務委託を導入している3大学の導入経緯と委託範囲について、成城大学大川氏、関西大学堀口氏、龍谷大学井上氏の順に説明があった。ここでは、本学関大の説明内容について私がメモしてきた内容を記載する。

- 1998年12月、夜間学生からの開館時間の延長要望に始まり、2000年4月には祝日開館、フロアごとの開館時間の一本化を行った。
- 図書館のめざすべき方向として、ビジョン7項目を策定
- 委託範囲は、カウンター、書庫、ガイダンス、盗難巡回、相互利用、装備目録、他キャンパス（高槻、高槻ミューズ、堺）の図書館（室）の運営
- 汎用機からUNIXへ切り替えたことで納品から配架までのスピードアップを実現
- 1990年代前半は新人職員が2～3名配属されていたが、人事方針転換により、ここ数年は他部署への異動者が増加している。

続いて、委託によって専任職員のコア業務がどう変化したか、カウンター業務やレファレンス業務等、ほぼ全面委託を行っている関西大学と龍谷大学の現状について、関西大学堀口氏、龍谷大学井上氏から説明があり、それを受け、成城大学大川氏より、関西大学と龍谷大学の現状を聞いた感想が述べられた後、今後全面委託を検討していくうえでの課題等について説明があった。

最後に、早稲田大学中元氏より、図書館のコア業務、新たな専任職員の役割について、意見が述べられている中、終了予定時間が来てしまいディスカッションは終了となった。

このパネルディスカッションでは、本学の業務委託導入事例や図書館における専任職員の業務の変化について学ぶことができたのは勿論のこと、他大学の導入の現状、大学図書館業界において、フロントランナーの一角を担う早稲田大学図書館事務部長の考えをライブで聞くことができたのは、貴重な機会であった。

3 EBSCO Discovery Service～ユーザーによる報告と最新情報～

EBSCO社主催のもと、15:30～17:00の90分間で行われた。当日の内容は以下のとおり。

■開会挨拶

- EBSCO International Inc. 磯崎 仁氏

■EDSユーザーによる講演

- 立命館大学 安東 正玄氏
- 福井大学 久保 智靖氏
- 大阪大学 坂本 祐一氏
- 質疑応答、ディスカッション

【共通トピック】

- EDSに期待したこと
(図書館運営上の効果、教育/研究への寄与等)
- 導入までのプロセス
(予算・技術・時間の観点から)
- 導入後の効果
- 今後の期待

■EBSCO社プレゼンテーション

- EBSCO International Inc. 古永 誠氏

【トピック】

- 海外の事例紹介（導入実績、運用事例、導入後の効果等）
- 最近のニュースと今後の予定（新コンテンツ、新機能の紹介）

■閉会挨拶

- EBSCO International Inc. 磯崎 仁氏

このフォーラムについては、EDSユーザーによる講演を聞き、今後の業務に生かせると自分自身が感じた点について、各大学の講演ごとに記載する。

(1) EBSCO Discovery Service導入とその後

講演者：立命館大学 図書館サービス課

安東 正玄氏

ア 導入を判断した背景（主なものを記載）

【外的要因】

- 大学図書館の役割の変化（管理中心から利用中心へ：ラーニングコモンズ）
- 大学を取り巻く環境変化
→競争の激化、教育の質向上

【内的要因】

- OPAC 中心からの卒業
 - Google 的なサービスの提供
- ⇒導入に関して、外的要因、内的要因それぞれの視点から分析されている。

イ 経過（概略）

年	内容
2009年4月	次期システムに向けてゼロから情報収集
2010年5月	構想案を部内で調整（Discovery Service 前提）
2010年10月	次期図書館システム開発方針、仕様書確定
2010年12月	学内コンセンサス
2011年1月	Summon 日本語対応報道、EBSCO 来校（日本語対応完了）
2011年2月	財務部門との交渉開始
2011年9月	予算「枠」確定
2011年10月	EBSCO Discovery Service 決定
2012年1月	OPAC との連携調整スタート
2012年3月末	新図書館システムスタート
2012年6月末	Discovery Service 正式スタート

⇒情報収集から Discovery Service スタートに辿り着くまでのプロセスは、EDS 導入に限らず、本学での様々なサービス導入を考える際にも、有用なものと思われる。

(2) 福井大学における EDS の設計

講演者：福井大学附属図書館 久保 智靖氏

【EDS の導入のコンセプト】

- アンケート調査 1
図書館の利用目的（総合図書館）
- アンケート調査 2
総合図書館でのデータベース利用
- DB の購入金額

⇒サービス導入に際し、アンケート調査を行い利

用者のニーズを把握している。また、導入の理由が「DB 購入金額の高騰に対する抑止策として」と明確な点は、参考にすべきであろう。

(3) ディスカバリーサービスの導入

— 一大阪大学の場合 —

講演者：大阪大学附属図書館

学術情報整備室 坂本 祐一氏

ア なぜ EDS 導入を検討したか

- 契約電子コンテンツの利用促進
- 最良のアクセスの提供
- 学生の電子コンテンツ利用を増やしたい

イ EDS を選定した理由

- 本学に必要な電子コンテンツが他社製品より搭載されている
 - 検索対象を限定する設定が可能
- ⇒アのサービス導入を検討した目的が明確であること、イのディスカバリーサービス導入にあたり、複数の候補の中から、なぜ EBSCO 社の製品を選択したかというように理由が明瞭な点は参考にとできると思われる。

4 最後に

今回の研修（イベント）に参加し私が最も感じたことは、情報の取捨選択と視野の拡大に関する重要性である。

日々新たなサービスが提供される環境は進化し、多くの情報が配信されている。今、本学図書館に足りないものは何か、何が求められているか利用者のニーズを把握し、そのうえで、多種多様な情報の中から必要なものを選択する能力が求められている。その能力向上の一環として、このような研修の機会を活用し、視野を広げることが肝要であると思う。日々の業務から離れ、研修を通じて得るものは思いの外大きいものがあると感じる。これからの図書館を担う人材となる後輩の職員にも、ぜひ参加をすすめたい研修（イベント）であった。

以上

（おおがみ よしき 図書館事務室）

平成24年度図書館活動報告

1 図書委員会

第1回：平成24年4月18日(水)

- 審議事項（平成23年度図書費決算について、平成24年度図書費予算について）
- 報告事項（平成24年度図書委員会開催予定日について、平成23年度購入基本図書について、選書協力依頼について、図書館自己点検・評価委員会委員（規程第5条第3号に規定する委員）の選出について、大阪大学附属図書館との協定について）

第2回：平成24年5月16日(水)

- 審議事項（図書委員会における代理出席の取扱いに係る申し合わせについて）
- 報告事項（平成24年4-5月の高額資料の購入について、駐日欧州連合（EU）代表部によるPRイベントEU IN JAPAN ROADSHOW「EUがあなたの街にやってくる」の実施協力について）

第3回：平成24年6月20日(水)

- 審議事項（「関西大学図書館規程」の一部改正について、逐次刊行物等の購入希望について）
- 報告事項（計画停電実施時における図書館の対応について、入試期間中の図書館利用について）
- その他（平成25年度図書費予算申請の手続きについて、閲覧室でのコンセントの使用について）

第4回：平成24年7月18日(水)

- 審議事項（逐次刊行物等の購入希望について、平成25年度図書費予算の申請について）
- 報告事項（平成24年6月の高額資料の購入について、平成24年度大学評価実地調査への対応について、ミューズ大学図書館高木文庫コーナー設置について）
- その他（計画停電について、図書の購入希望について）

第5回：平成24年9月19日(水)

- 審議事項（平成25年度図書費予算の申請について）
- 報告事項（資料受入申請に対する審議方法の変更について）
- その他（平成24年度大学評価実地調査に伴う図書館視察について、私立大学図書館協会主催国際図書館協力シンポジウムの開催について、別置資料の地下2階書庫への復帰について、図書委員からの質問及び事務局からの回答について）

第6回：平成24年10月17日(水)

- 審議事項（逐次刊行物等バックナンバーの購入希望について）
- 報告事項（図書費執行状況について、図書館無線

LANのの設置について、平成24年9-10月の高額図書資料の購入について、学園祭期間中の図書館の閉館について、「関大防災 Day2012～広がれ！みんなの安全・安心！～」実施日の対応について）

- その他（堺キャンパス図書館における閉館時間延長について、ミューズ大学図書館資料のカビ発生について、平成25年度基本図書の推薦について）

第7回：平成24年12月19日(水)

- 審議事項（逐次刊行物等の10-11月分購入希望について、平成25年度図書館開館日程について、ベルギー・ルーヴェン大学図書館との相互協力覚書の締結について）
- 報告事項（平成25年度図書費予算について、平成24年度図書費執行状況について、平成24年10-11月購入の高額資料について、総合図書館書庫資料移動作業について、総合図書館グループ閲覧室の運用変更について、平成25年度 関西大学図書館 市民利用の募集について）
- その他（学認（学術認証フェデレーション）を利用した学外からのDB利用について）

第8回：平成25年1月29日(水)

- 審議事項（平成24年度補正予算申請に伴う平成25年度基本図書の一部前倒し選定について（持ち回り審議）

第9回：平成25年2月20日(水)

- 審議事項（平成24年度補正予算申請に伴う平成25年度基本図書の一部前倒し選定について、平成25年度基本図書の選定について）
- 報告事項（2013年度図書館ガイダンス実施計画案について、平成24年度12月購入の高額資料について、平成24年度図書費予算執行状況について）
- その他（大学一般入試期間中の総合図書館の利用について、各キャンパス図書館（室）の見学について）

2 図書館自己点検・評価委員会

平成24年度は前年度に大学基準協会に提出した関西大学自己点検・評価報告書に基づき、同協会による大学評価を受審した。

また本委員会は上記実地調査に対応するとともに、6回の会議を開催し、統計データに基づき、次の4つの項目について検証した。

- ① 図書館の利便性は向上しているか
- ② 4図書館体制における利用環境の充実・利便性の向上

③ 学術情報の電子化の流れと4図書館体制のもとでの
取書方針と図書館図書費

④ 場としての図書館・図書館の発信機能

このことにより、次回大学評価にむけて、図書館評価の
ための新しい評価指標と統計項目の成案を得た。

第1回：平成24年4月18日(休)

- 審議事項（2012年度認証評価実地調査に向けた取り
組みについて、今後の日程について）
- 報告事項（2011年度自己点検・評価報告書について、
「図書館のありかた検討プロジェクト」における検討
事項の報告）

第2回：平成24年5月16日(休)

- 審議事項（図書館自己点検・評価について）

第3回：平成24年6月20日(休)

- 審議事項（図書館自己点検・評価のための新たな評価
指標について、現在の評価指標について）
- 報告事項（平成24年度大学評価実地調査の日程につ
いて）
- 懇談事項（図書館の将来構想を検討する場について）

第4回：平成24年7月18日(休)

- 審議事項（大学評価実地調査に向けて設定した新たな
評価指標とそれに基づき作成した統計データについて、
今後の日程について）

第5回：平成24年12月19日(休)

- 審議事項（大学評価のための図書館評価指標の設定に
ついて）
- 報告事項（大学評価実地調査について、今後の日程に
ついて、次回大学評価について）

第6回：平成25年2月20日(休)

- 審議事項（大学評価のための図書館評価指標案一覧に
ついて）
- 報告事項（大学評価結果〔委員会案〕に対する意見の
提出について）

3 図書館諸会議

図書委員会開催の前週水曜日に図書館長と図書館職員で
「図書館会議」を開催し、次回図書委員会事項等を協議し
ている。また、毎週火曜日に図書館職員による「図書館運
営会議」を45回開催した。

4 関西四大学図書館長会議

- 開催日：平成24年9月10日(月)
- 場 所：関西学院大学 西宮上ヶ原キャンパス 大学図
書館
- 出席者：関西大学、関西学院大学、同志社大学、立命館
大学

(1) 報告事項

- ① 関西四大学図書館連絡会（2012.7.3開催）につ

いて

② 関西四大学図書館相互利用担当者会（2012.9.10
開催）について

③ 関西四大学図書館職員研修会（2012.11.28開催
予定）について

(2) 近況報告・情報交換

- ① 2012年度図書館図書資料費予算について
- ② 電子情報の利用および発信について
- ③ 利用者サービスについて
- ④ 課題および将来計画について
- ⑤ その他

5 第33回（2012年度）EUiセミナーへの参加

- 会期：平成24年10月11日(休)～12日(金)
- 会場：琉球大学50周年記念館

6 セミナー・講習会等の開催

図書館利用者教育の一環として、各種ガイダンスを実施
した。

○「入門ガイダンス」

総合図書館をこれから利用する新入生のクラスを対象
に総合図書館の使い方を説明した。

- 実施期間：春学期4月9日(月)～6月30日(土)

秋学期9月21日(金)～11月30日(金)

○「活用ガイダンス（定型内容による実施）」

雑誌や新聞に掲載される論文や記事の検索を中心に、
定番の各種データベースやオンラインジャーナルの利用
方法を説明した。

- 実施期間：春学期4月9日(月)～6月30日(土)

秋学期9月21日(金)～11月30日(金)

○「活用ガイダンス（自由選択方式による実施）」

前述の「定型内容」では取り上げない特定の専門分野
のデータベース（例：判例データベース、理工系学部向
けのデータベース等）についての18種類のガイダンス
項目を組み合わせ、内容をカスタマイズできるガイダ
ンスを実施した。

- 実施期間：春学期5月28日(月)～6月30日(土)

秋学期9月21日(金)～11月30日(金)

○「図書館プチゼミ」（自由参加型ガイダンス）

自由参加方式による小規模のガイダンス（約15分）
を実施した。

- 内容

データベースの利用法の説明（14種類）、および書庫
ツアー

- 実施期間

総合図書館：春学期6月1日(金)～6月29日(休)

秋学期10月9日(火)～26日(金)、

11月20日(火)～30日(金)

高槻図書室：10月15日(月)～26日(金)

11月12日(月)～16日(金)

堺キャンパス図書館：

10月23日(火)～26日(月)

11月12日(月)～16日(金)

ミュージズ大学図書館：

11月26日(月)～12月6日(木)

7 展示会

於：総合図書館展示室

○日・EUフレンドシップウィーク展示「LOVE LETTER from Europe ヨーロッパ著名人たちのラブレター」

(1) 会期：平成24年5月28日(月)～6月11日(月)

(6月5日(火)除く)

(2) 来場者数：487人

○学内機関主催による展示

(1) タイトル：「織田作之助と『大阪』」

会期：平成24年4月14日(土)～5月20日(日)

主催：関西大学大阪都市遺産研究センター

協力：オダサク倶楽部

(2) タイトル：「戦争の記録と表象：火野葦平—日本・アジア・ヨーロッパ—」

会期：平成24年9月13日(水)～9月22日(土)

主催：東西学術研究所 日本文学・芸能研究班



8 平成24年度文部科学省私立大学等研究設備整備費等補助

図書館関係の申請については、図書委員会で選定して次の1件が採択された。

(1) 特別設備

「聖語蔵経巻」

9 図書館の刊行物等

(1) 『図書館利用案内』2012年版をA5判2分冊に変更して編集発行

(2) 『ガイドブック 文献のさがし方から入手まで』2012年度版(増補版)を発行

(3) 本誌第17号を発行し、図書館ウェブサイトにて公開(第15号より冊子による刊行は中止した)

(4) KULione (Kansai University Library's info for Everyone) の発行

今年度より、図書館からの情報発信機能を強化する目的で、学生を対象としたリーフレットを年2回発行し、図書館及び図書に関する最新情報を提供している。平成24年10月に創刊号を発行した。



図書館展示会報告

日・EU フレンドシップウィーク展示

「LOVE LETTER from EUROPE
ヨーロッパ著名人たちのラブレター」
平成 24 年 5 月 28 日(月)～6 月 11 日(月)

概要

「日・EU フレンドシップウィーク」は、日本における欧州連合 (= European Union 以下、EU) の認知度向上を目的として、毎年 5 月 9 日の「ヨーロッパ・デー」を中心に、駐日欧州連合代表部の後援のもと、全国の EU 情報センター (= European Info 以下、EUi) がさまざまな催しを実施するものである。本学も EU ならびに EUi を学内外に広報するべく、ヨーロッパにちなんだ展示を総合図書館 1 階展示室において開催した。

展示内容

欧州連合 (もしくは現在の欧州連合加盟国の前身国) 出身の偉人が書いたラブレターの訳文から一部を抜粋し、人物紹介を添えて展示した。紹介した人物は、カフカやベートーベンなど総勢 23 名。そのほか、EUi の紹介ポスターや欧州旗などを掲示した。



展示室



資料展示 (左) サン＝テグジュペリ (右) EUi 資料

図書館出版物案内

1 冊子目録等

- 細江文庫目録……450円
わが国英語学界の重鎮、故細江逸記の旧蔵書目録。
- 大阪関係資料目録……650円
昭和35年1月1日現在所蔵の大阪府、市関係の図書・地図・近世文書・堂島文書・芝居番付・明治中期広告の総合目録。
- 生田文庫・額原文庫目録……非売品
在野の万葉集研究家故生田耕一の旧蔵書の一部と、故額原退蔵旧蔵書の目録。
- 吉田文庫目録……1,300円
元トルコ駐在特命全権大使であった故吉田伊三郎の旧蔵書目録。
- 岩崎美隆文庫・五弓雪窓文庫目録……1,500円
江戸時代末期の国学者岩崎美隆の旧蔵書目録と、幕末の漢学者五弓雪窓の旧蔵書目録。
- 増田渉文庫目録……6,000円
わが国魯迅研究の第一人者であった元文学部教授故増田渉の旧蔵書目録。魯迅の全著作の初版本他。
- 矢口文庫目録……2,700円
本学の元学長で、イギリス経済史学界の重鎮であった故矢口孝次郎の旧蔵書目録。
- 極東国際軍事裁判資料目録……非売品
極東国際軍事裁判における検察側及び弁護側提出の書証と関係資料の目録。
- 泊園文庫蔵書書目ならびに索引の部……品切
幕末の浪速私学「泊園書院」の旧蔵書目録。
- 近世文書目録
その一……1,350円、その二……2,000円
大阪周辺の庄屋文書を核に、ほぼ全国各地の近世文書を加えたコレクション。
- 大阪文芸資料目録……3,500円
明治以降の、大阪にゆかりのある作家・画家・芸能人

などの作品や大阪を題材とした作品などの本学所蔵コレクションの目録。

- 内藤文庫漢籍古刊・古鈔目録……2,500円
内藤湖南・伯健父子旧蔵書の一部善本類の目録。
- 内藤文庫リスト No.1～No.5…非売品（ただし、No.1は在庫なし）
- 芝居番付目録……8,000円
大阪を中心とする宝暦から昭和に至る歌舞伎、浄瑠璃等の芝居番付約6,500点の目録。
- 大坂画壇目録……品切
- 摂津国嶋上郡高浜村西田家文書目録……非売品
- 河内国丹北郡六反村谷川家文書目録……非売品
- 摂津国住吉郡中喜連村佐々木家文書目録……非売品
- 和泉国大鳥郡豊田村小谷家文書目録……非売品
- 和泉国大鳥郡岩室村中林家文書目録……非売品

2 CD-ROM版

- 内藤文庫目録 KUL-bijou……非売品

3 図書館出版図書

- 江戸書状（全三巻）
旗本鈴木家と庄屋西田家との往復書簡集
第一巻（天保七年から弘化四年）……品切
第二巻（嘉永元年から安政六年）……品切
第三巻（万延元年から明治元年）……品切
- おおさか文藝書画展 図録……2,000円
平成6年9月、図書館創設80周年記念・文学部創設70周年記念として開催した「おおさか文藝書画展—近世から近代へ—」の図録
- 展示目録 大坂の書と画と本……1,000円

以上

平成24年度に制定及び改正のあった図書館諸規程

図書館規程

平成24年10月1日改正分

関西大学図書館規程改正案の新旧対照表

現行	摘要	改正
<p>関西大学図書館規程 制定 平成13年7月12日</p> <p>第1条～第2条 <省略></p> <p>(図書館長)</p> <p>第3条 図書館に図書館長を置く。</p> <p>2 図書館長は、図書館を代表し、図書館の業務を統括する。</p> <p>3 図書館長は、学長が教授のうちから理事会に推薦し、理事会が任命する。</p> <p>4 図書館長の任期は、<u>3年</u>とし、再任を妨げない。</p> <p>5 図書館長が欠けたときは、補充しなければならない。この場合において、後任者の任期は、前任者の残任期間とする。</p> <p>第4条～第10条 <省略></p>	<p>文言の修正</p> <p>附則の追加</p>	<p>関西大学図書館規程 制定 平成13年7月12日</p> <p>第1条～第2条 <省略></p> <p>(図書館長)</p> <p>第3条 図書館に図書館長を置く。</p> <p>2 図書館長は、図書館を代表し、図書館の業務を統括する。</p> <p>3 図書館長は、学長が教授のうちから理事会に推薦し、理事会が任命する。</p> <p>4 図書館長の任期は、<u>4年</u>とし、再任を妨げない。</p> <p>5 図書館長が欠けたときは、補充しなければならない。この場合において、後任者の任期は、前任者の残任期間とする。</p> <p>第4条～第10条 <省略></p> <p><u>附 則</u></p> <p><u>この規程(改正)は、平成24年10月1日から施行する。</u></p>

『図書館フォーラム』投稿要項

制定 平成 8 年 3 月 31 日

『大学図書館研究』の原稿募集要項に準じて、概要を次のように定める。

(1) 原稿執筆者の範囲

原則として、依頼記事・寄稿記事いずれの場合も、本学の教育職員並びに本学図書館所属の職員を執筆者とする。

(2) 原稿の内容

次のいずれかで、執筆者自身の未発表原稿とする。

- ア 研究論文・研究ノート
- イ 図書館に関する調査・意見
- ウ 本学所蔵資料の紹介
- エ 図書館職員のレポート
- オ その他図書館に関する記事

(3) 取 載

寄稿原稿が予定の紙幅を超える件数があったときは、取載順序を図書館長が決める。

(4) 謝 礼

依頼記事の執筆者（図書館職員は除く）には、若干の謝礼を贈呈する。ただし、抜刷は提供しない。

(5) 投稿先

関西大学図書館事務室 (TEL 06-6368-1157)
電子メール (lib-ent@ml.kandai.jp)

(6) 執筆要領

- ア 本誌 1 ページにつき 2,070 字相当とする。
- イ 原稿は横書き、電子メールまたはフロッピーでの提出を原則とし、手書き原稿も可とする。
- ウ 電子メールまたはフロッピーで提出する場合は、プレーンテキスト (txt) 形式もしくはワープロ (Word) 形式を原則とする。
- エ ワープロを使用の場合は、1 行を 23 字とし 45 行を 1 ページとして設定する。
- オ 本文中に図・表または写真を掲載する場合は、その相当分の字数を割愛する。
- カ 原稿は次の順に記載する。
 - ① 標題、② 執筆者名、③ 本文、④ 注記、⑤ 引用文献、⑥ 参考文献、および⑦ 執筆者名の読みがな・職名
- キ 原稿の表記は、次に従うものとする。
 - ① 漢字は原則として常用漢字を用い、新かなづかいによる。書誌学的な理由などから、特に旧字体を使用する必要がある場合は、原稿用紙の右欄外にその旨を記す。また、欧文原稿を除き句読点は「。」、「、」を用いる。
 - ② 数字は、引用文および漢語の一部として漢数字が習慣

的となっている場合を除き、原則としてアラビア数字を用いる。

③ 引用文献、参考文献の記載方法は、次のとおりとする。

a. 雑誌論文の場合

筆者名 “論文標題” 『雑誌名』 巻 (号)、年月、ページ

b. 図書の中の一部引用の場合

著者名 “論文標題” 『書名』 (図書の著編者名) 出版地、出版者、出版年、ページ

c. 図書の場合

著者名 『書名』 出版地、出版者、出版年

d. 欧文の場合は、著者名を転置形として、雑誌名または書名には『 』を付さずにアンダーラインで示す (印刷では、イタリック体活字になる)。

[例] Downs, Robert B. “How to start a library school.” *ALA Bulletin* 52 (6), 1995.6, pp.32-48.

e. インターネット上の文献

著者名 “文献標題” [参照年月日] (URL)

[例] 永沼博道 “21 世紀の大学図書館に向けて—伝統と現代化の相克” [参照 2003.1.20]
(URL http://web.lib.kansai-u.ac.jp/library/about/lib_pub/forum/2002_vol7/2002_01.pdf)

ク 図・表は、図 1、図 2、表 1、表 2、fig. 1 のように記す。図または表を電算等で出力したものをそのまま使用するとき、鮮明なものを用いる。写真は出来るかぎりモノクロームを用いる。図、表、写真には、その裏に執筆者名、標題、図 1、図 2、表 1、表 2 のように番号を鉛筆書きのこと。

ケ 校正は、初校を執筆者に依頼し、再校以降は図書館が行うことを原則にするが、必要のある場合は、再校以降についても執筆者の協力を得るものとする。

(7) 掲載した著作物の電子化と公開許諾について

本誌に掲載した著作物の著作権は執筆者に帰属するが、次の事項について執筆者はあらかじめ了解するものとする。

ア 関西大学図書館ウェブサイトにて公開されること

イ 国立国会図書館が行う電子メディアに収録されること

以上

〈平成 21 年 12 月 1 日改正〉

編集後記

本学図書館は、来年平成 26（2014）年、創設 100 周年を迎えます。大正 3（1914）年 7 月に大阪・福島学舎に 2 階建洋風の本学初の独立図書館が竣工しました。僅かに 20 坪の広さながら、緋の着物に袴姿の学生達が熱心に閲覧している様子が写真に残されています。現在は、4 キャンパスに図書館（室）があり、総蔵書数は 220 万冊を超え、その中には多くの個人文庫、貴重書及び特別コレクションも含まれています。先人たちの足跡に 100 年の伝統を感じると同時に、それを継承するのみならず、発展させていかなければならない責務をより強く感じます。

本学図書館は、まもなく 2 世紀目に突入するわけですが、資料のデジタル化やインターネットによる公開に注力し、「電子図書館」としての機能を果たすとともに、社会への知的貢献に努めていく新たなスタートラインに立つといえるかもしれません。「伝統と改革」、本学図書館のモットーに忠実に、2 世紀目に向け進取的に取り組んでいきます。

最後に、ご寄稿いただきました方々には、年度末年始の慌ただしい時期にもかかわらず、快くご執筆いただきましたことを心より感謝いたします。

（高橋）

図書館フォーラム編集担当

高橋 真澄・加藤 博之・松本 和剛

関西大学 図書館フォーラム 第 18 号（2013）

平成 25 年 6 月 30 日発行

編集・発行 関西大学図書館
〒564-8680 大阪府吹田市山手町 3-3-35
TEL 06-6368-1157
<http://web.lib.kansai-u.ac.jp/library/>

制作 (株)遊文舎
〒532-0012 大阪市淀川区木川東 4-17-31
TEL 06-6304-9325
